建築雜誌

特別號

大正六年九月十四日　第三種郵便物認可
大正十一年十一月一日　第四種郵便物認可

第五輯　第十六號



大正十一年十一月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ達成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員ダルノ資格ヲ失セルル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルヽコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長ダル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　主　計　一　名

三　編　輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ノ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ニ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ開ク

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ニ關スル計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員ダルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會員金寄附金贊助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

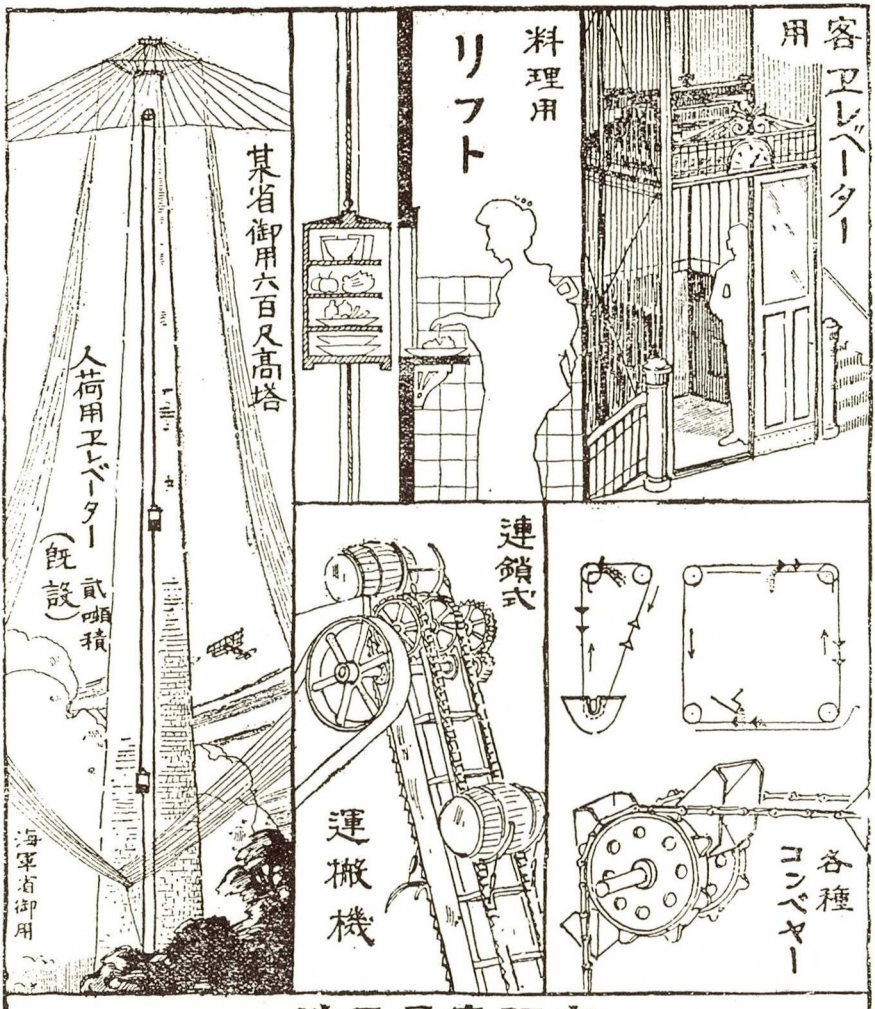
本會ノ財產積立務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの権威

（専賣特許六件）



大阪東區玉造

日本エレベータ製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會　第五輯第拾壹號（特別號）目次

△口　繪……（住宅改造博覽會大觀（六頁大寫眞版二葉））……

〔卷　頭〕

◎黎　明……

〔論　說〕

◎建築工事の革新運動に就いて……日本建築協會副會頭　工學博士　片岡　安……二

◎田園都市……法學博士　關　一……六

◎右？左？……工學博士　田邊朔郎……一八

——道路利用の一問題——

◎『性』と『住宅』……日本建築協會理事長　工學士　橫濱　勉……二一

〔研　究〕

◎米國に於ける貸金庫見聞記……村野藤吾……二四

◎建築物の內外に於ける日射關係並に「サナトリウム」建築上の應用に就いて……醫學士・富永孟・三一
◎佛蘭西に於ける美術工學の新運動……川村種三郎・三八
〔都市〕
◎住宅より觀たる都市……玄黃子・四四
〔住宅〕
◎住宅改造博覽會を覽て……江村郊邨・五五
〔漫錄〕
◎京阪建築雜感……文學士・黑田鵬心・七七
◎「ヂヤッズ」……在ブリストン大學……ZY生・八二
〔會報〕

建材

タイル、テラコッタ各種
衛生陶器洗面器各種
ホーロータイル各種
汽罐及煙突用耐火煉瓦
建築專用石膏

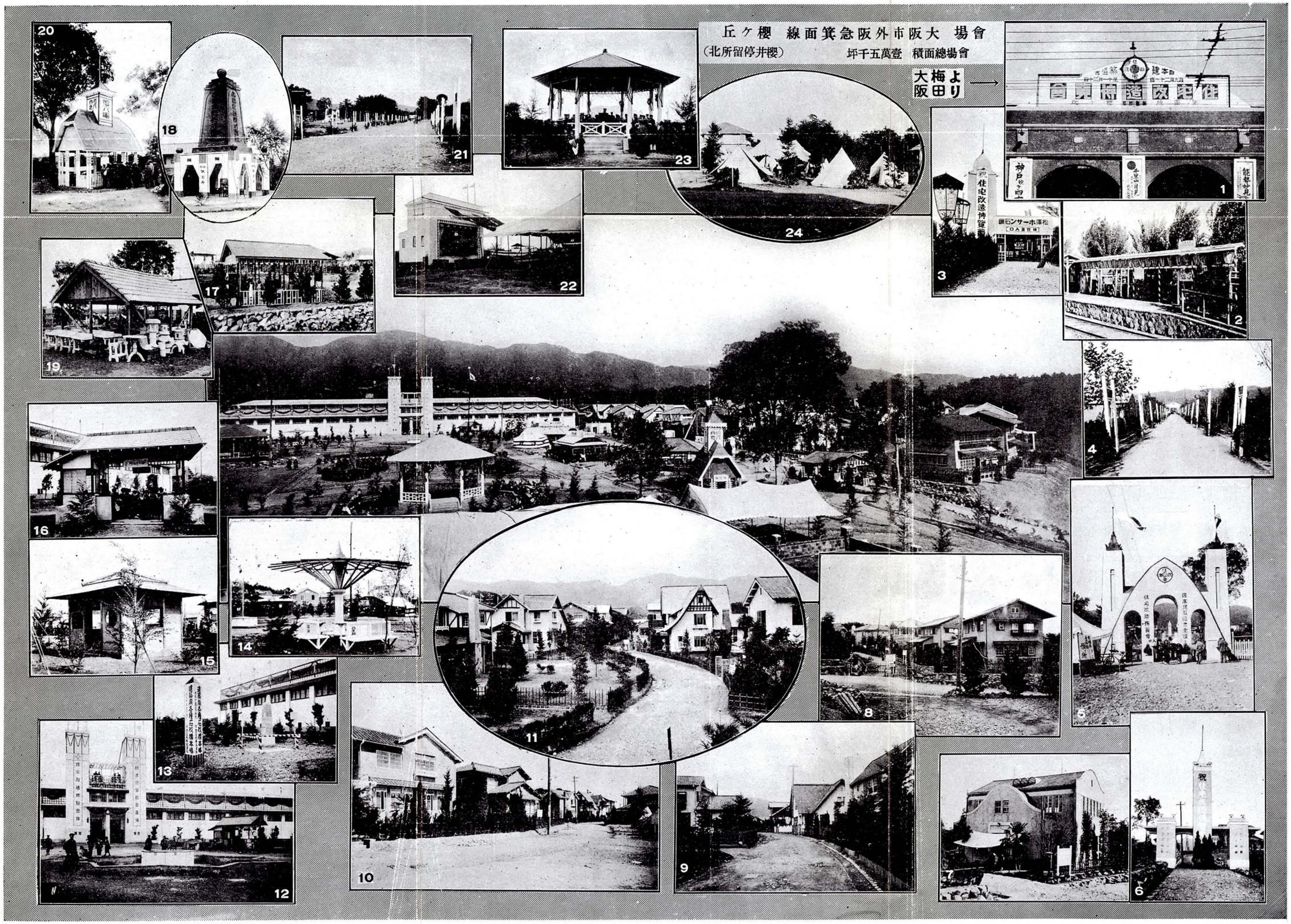
營業所

大阪市北區堂島裏町三丁目三十一番地

陸海軍省鐵道省指名工場
東海窯業製造所

（電話北五二七八番）

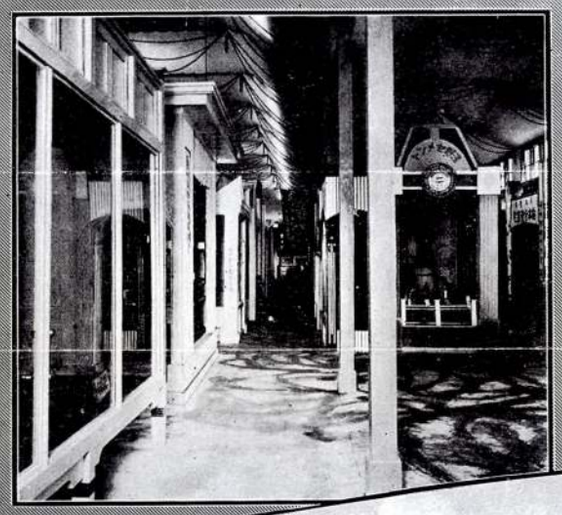
住宅改造博覽會大觀（そのー）

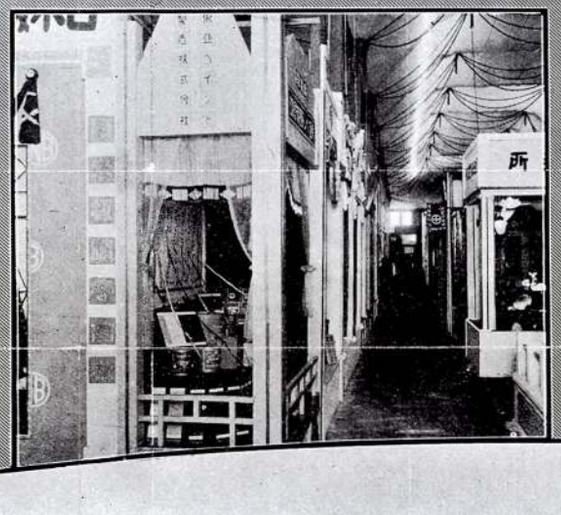


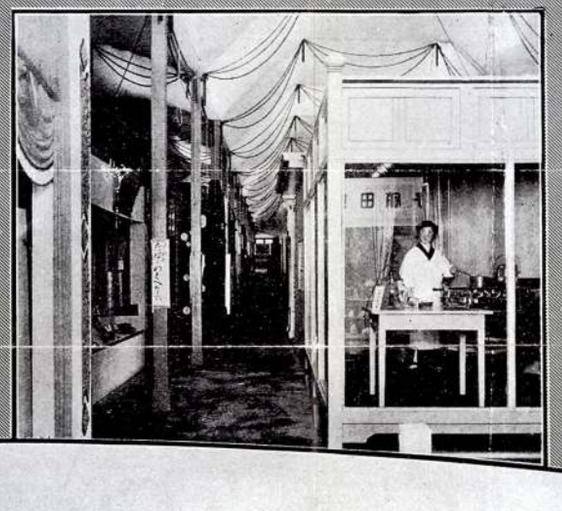
1 大阪梅田阪神急行電車乘場　2 箕面線櫻井停留所の裝飾　3 櫻井停留所前無料休憩所　4 櫻井停留所より會場へ到るアーチ　5 會場入口正門　6 會場入口クラブ廣告塔
7 博覽會事務所　8 出品實物住宅街の一　9 出品實物住宅街の二　10 出品實物住宅街の三　11 出品實物住宅街の四　12 博覽會本館入口　13 本館前石材標本塔　14 極東硝子
工業會社無料休憩所　15 八尾組無料休憩所　16 神戸野澤商店無料休憩所　17 不動產協會聯合無料休憩所　18 帝國信託株式會社無料休憩所　19 櫻セメント出品陳列所　20 愷
六商會出品陳列所　21 會場田村橋に至るアーチ　22 書問活動寫眞館　23 音樂堂　24 大阪毎日新聞社出品テント村　其他、無料休憩所、蓄音機音樂堂、安全飛行機等の設備あり

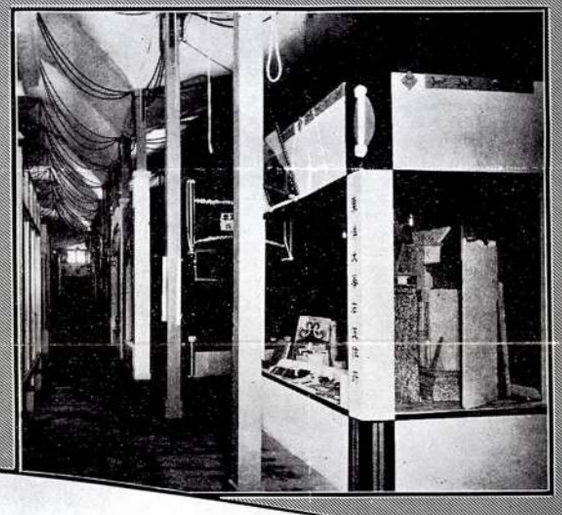
刷印版製社文工　三町寺實久内區東阪大

住宅改造博覽會大觀　（その二）

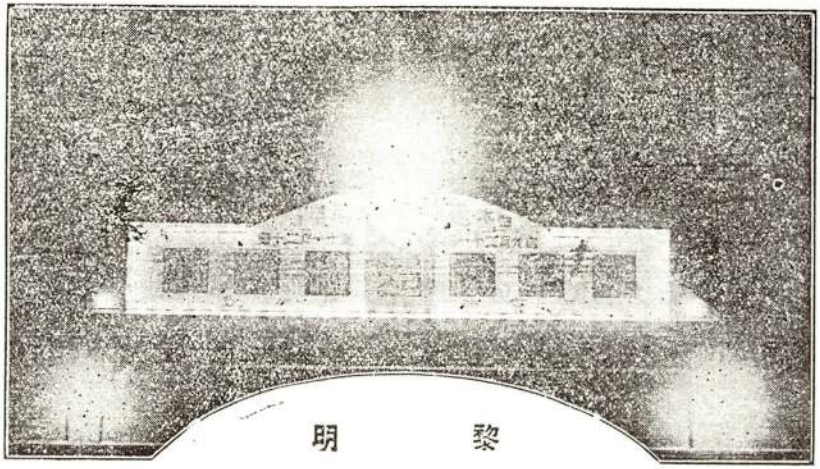












黎　明

文藝復興（ルネッサンス）期を、人文の黎明期と觀れば、幾百年後の今、我居住生活改善の問題は、當に、第二の人文的復興期だ、とも謂へる。而して、斯の思想の流れを、如實に表現したものは、少くとも、我「住宅改造博覽會」を以て先驅者たるの矜持（プライド）を示すであらう。頃者、日本に於ける出版界の消息は、住居に關する著作の續れ行き旺盛なるを云ふ、蓋し、住居生活革新の黎明期を陰約に語るものにあらずして何ぞ。復興！、黎明！、我住宅博こそ、その曉鐘であらねばならぬ。



建築工事の革新運動に就いて

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

一

我國の建築工事は最近長足の進歩をなしたと言はれて居る。其工事期間に於て、又其作業の方法に就いて、或は材料及特種製作品の利用に關し、歐米各國の進歩に追從しつゝある如く見ゆる點に於て確に長足の進歩を爲た樣に思はれる。併し乍ら、實際建築工事の局に當つて居る者からその實情を觀察するときは、我國現時の建築工事は各方面に於て墮落退歩しつゝあるのではないかと、見られるのである。抑々建築工事の如き複雜なる作業は、其設計圖面及書類に於て整然たる組織と、緻密なる數量計算表を具備するを第一の基本とし、之を實施する準備行爲に於ても、亦深き經驗と精緻なる調査とを要するのである。又その實施に際しては勞力と材料との配合、指導者と監督者との折衝等一厘一毛の誤差遲緩があつてはならぬのである。故に古來建築工事はその設計と實施を非常に重大視されたのであつて、宮殿

佛閣は素より、一小數寄屋造りと雖も、忽諸に之を取扱つた例は鮮かつたのである。

然るに、近來我國に於ける建築工事の勃興に連れて生ぜし凡ゆる新組織及實施の手段は、果して緻密なる研究の下に運ばれたものであるや否や、甚だ疑はしいのである。官廳や公共團體の工事の設計及施工、規定等が全く機械的又は死物扱ひにして、技術家及請負業者を命令又は定規にて縛り付けてあるのは徒り時代後れであつて、建築の如き創造力を生命とする對象物を理解せざる誤れる組織であることは識者の凡てが一致せる觀察であると謂つても差支はない。而して民間に於ける建築工事は必ずしも官廳のそれと同一なる機械的取扱をなすの要なき筈なるに、如何なる譯であるか、民間識者なるものも自から之を創造的手腕を要するものと解釋しては居ないようである。其結果事務的取扱法によりて萬事を解決せんとして不識不知の間に機械的又は死物扱ひに陷りつゝあるを一般の常態とする。

二

建築工事の設計及施工の取扱が、上述の如き誤れる管理の下に出發する爲に生ずる弊害の多きは、言ふ迄もなき事ながら、其根本と、其進展の徑路に於て、又其社會的經濟的の活動、品位及價値を向上する點に於て、其生々たる創造的進歩を阻害することの大なるは、寔に遺憾とする處である。古來洋の東西を問はず、一代の紀念的大建物は素より、經濟活動の舞臺としての各種の建築物は、其建設の代表者と計畫技術者との間には常に隔意なき諒解とその信任が十分であつた場合が多いのである。又そうなくてはならぬのである。然るに建設者の側に於て創造の斯の難問題を輕微なる俗事と見做して之を其屬僚に一任し、計畫者の技能を發揮せしむべき熱誠を缺く時は、其建築物は建設の其主眼に於て生々の氣分を失ひ、藝術的に又經濟的に其價値を損すること多大なるものあるは事々物々然らざるはないのである。吾人は不幸にして、最近の我建築工事は、其計畫と其施工に於て何れも斯の缺陷に曝されて居ることを痛

嘆することである。雄大なる建築の起らざる所以も、社會指導の中心舞臺たる民衆的建築物の鮮きも、皆その原因を此處に發するを感せざるを得ない。而して斯の缺陷は今や漸次其濃度を增さんとして居るのである。唯物質的に量の大なる建築物が增加しつゝある我現狀を見て、直ちに之を我建築界の進展と考ふるが如きは吾人の採らざるところである。そは社會的に量の大なる建築物が必要に迫つて來たと言ふ實際的の事情に過ぎないので、其實現の建築的徑路が適實なる進展の順序を經たか、どうかと言ふことを示すものではないのである。

三

建築らしい建築物が社會の進步民衆文化の進展と並行し、或は之に一步を先んじて勃興することは、吾人の理想とする處であつて、建築界の最善の努力はその實現に向つて注がねばならぬのである。歐米の社會に於ては、斯の理想は或る程度まで常に其の實現を見て來たのであるが、我國の現時の狀態は甚だしく其實情を異にし、上述の如き恐るべき缺陷を曝露して居るのである。若し斯の缺陷にして匡正さるゝ事なくば、我建築界の前途はもとより社會生活の進展上不幸此上もないことである。殊に最近思想界の惡化により建築勞働者の不節制は、彼等の技能と其施工能率の低下を招きつゝある事實の甚だ顯著なるものあるを見るのみならず、之を制御すべき下請負人及總請負者の態度及其訓練の幼稚なる點は、建築工事施工の方面に於てゝも亦其組織の缺陷と相並んで、著しき時代錯誤を示して居るのである。抑も現代文化の進展は、建築物の實現に依つて其活動舞臺を見出しつゝあると言つて可いのである。之を內面に見て住宅は其一であり、音樂堂、美術館、圖書館、博物館等は其二であり、學校、病院及各種研究所は其三である。又之を外延的に見れば諸官衙、交通機關及一般公共衛生の設備等甚だ廣汎なるものを擧げねばならぬ。而して此等の建築工事は一として我社會生活進展の直接舞臺ならざるものはないのであ

るから、其實現の組織方法に於て建築技能を十分に創造的に發揮し得るように爲し、以て其發展を畫策することこそ文化指導の大方針でなくてはならぬのである。然るに何事ぞ、我社會は官民共に建築工事を以て唯些小なる不急の土木の如く考へ、之を事務規則による一般庶務的取扱をなし、生々たる技能の創造力を壓へんとして居るように思はれる。其不幸は啻に我建築界のみに止まらず、我國文化の進展を阻害し、文化生活の進路を閉塞しつゝあるを痛嘆せざるを得ない。吾人は、我國の文化向上に貢献せん爲めに此等の缺陷に向つて一大革新運動を爲すを急要と考ふるのである。其方法及細論に至つては更に詳說したいのであるが、兎に斯此の誤れる現時の狀態に就いて、建築界の同士は素より、世の先覺者の猛省を促し、各方面の意見を徵するを得ば、蓋し本懷とするところである。

一度歩を着くるや
世界には他に一物なき
の概を以つて進むべし

田園都市

法學博士　關一

一

今更らに事新しく述ぶるまでもなく、住宅問題は世界各國共通の問題である。殊に、戰後の歐羅巴の諸國では、斯の問題が非常に重要な意義を有することに成り來つたのである。されど、斯の問題は、必ずしも戰後に始めて起つた問題ではなく、歐羅巴に於ては餘程以前から研究されて居つた問題であり、それが、戰爭の終了と共に一段と重大な意義を有するように成つて、今や、歐羅巴諸國に於ては、是を怎う解決し行くか、と云ふことは、餘程重大な問題である。殊に、英國の住宅政策に對する態度の如きは驚嘆に値ひすべきものがある、と言つて可からう。同國の一例を以て觀るも、英國は戰爭中四箇年の間全く住宅の建築が行はれなかつた、即ち戰爭中に於ては、何事を差し措いても、先づ戰さに勝たなければならない、斯の場合、住宅を建築する所ではなく、軍器の製造、其他戰爭の方面に全力を傾倒して居つたのであるから、其間は全く住宅建築を手控へたのである。仍て、平和と成つて見れば、家が非常に足りない、其上に戰場から歸つて來る所の將校兵士を入るべき家がない、茲に於てか、住宅補給政策を樹てゝ政府は相當の國幣を投じて住宅を供給しなければならない、と云ふことになつたのである。

元來、英國に於ては、年々增加する住宅數は先づ十萬戶といふ見當であつた、此の十萬戶が戰時中前後四年の間全く供給を杜絶せられて居つたのであるが故に、斯の大數から觀れば實に四十萬戶の家が足りないことになる、茲に、英國政府は、住宅補給の一大政策を決して、そこでそれを建築するに

は、相當な期間に尙ほ依然として、住宅の不足率の增加即ち件の一箇年分の不足戸數拾萬戸を加へて、五十萬戸を建築すると云ふ案を、千九百十八年休戰條約の締結せらるゝと共に、立てたのである。それが翌年の七月に『都市計畫法』や『住宅法』となつて現れたので、是ぞ英國の新らしい住宅政策そのものである。

今斯の住宅政策に就いて詳しく述ぶるの暇がないから、是に於いては姑く避くることゝするが、此五十萬戸を建てると云ふことに就いて、英國政府は奈何なる決心を有つて居つたか、と云ふに、此一戸の建築費が、先の六體に於て一千磅——一千磅以上になつた時代があり、又最近に於ては餘程下落したが要するに之を一千磅とすれば、五十萬戸で五億磅、即ち邦貨の五十億圓と云ふ建築費が要るのである。之に對して、英國政府は、一箇年に一億圓の支出を爲し、地方團體や其他家屋を建築する者に補助して其計畫を實行する、といふ案を立てたのである。

斯の雄大な計畫は、日本の現狀に較べてみれば、實に驚くべきものである、と云つて可い。日本に於ては、最近數年間に、住宅問題に就いて幾等か世人の注意を惹くやうになつたのであるが、さりとて政府の態度も、國民の態度も、住宅問題に就いては、未だ非常に冷淡なるを免れない。即ち、住宅問題の眞義を十分に了解して居らない。唯、纔に、政府は、二三年前から、幾分か低利資金を地方團體其他に融通して、住宅の建築を奬勵して居るに過ぎない。而も、其融通額奈何と見れば、實にその貧弱さに驚くの外なく、今日までに——正確な數字は今此處に述べ難いが——約三四千萬圓であらうと思はれる。併し、此處に讀者の注意を請ひ度きは、件の三四千萬圓と云ふのは元金の額であつて、建築の費用を謂ふのであるに反し、英政府が支出しようといふ前述の一箇年一億圓とは利息の補助を謂ふ斯の相違である。右の元金に對して利息が奈何程に當るか、と云ふことは、兎も角として、元金の方が日本は三四千萬圓であつて、英吉利の方は年々拂つて行く利息の補助だけが一億圓、斯う云ふ譯である。即ち日本の金に

すれば、建築費が五十億圓と云ふ巨額に達し、利息の補助だけを一箇年に一億圓も支出して、住宅補給の問題を解決しやうと云ふ斯の思ひ切つた一大政策を採れる事を考へて見れば、我國のそれに比し、其間に霄壤も啻ならぬ相違あることに氣着くであらふ。

是は、唯形式の上から、或は政府の支出する金から比較したのであるが、それよりは、先づ、問題の根底に眼を轉じてみると、日本に於ては、殆ど、其住宅問題と云ふものゝ眞正な意義を解釋して居ないやうに見受けられる。今、試みに、その二三の事實を指摘せむに、先づ、最近に於て幾分か郊外に空家が出來た事實を見て、忽ち之を以て、最早住宅問題の立ち消へたかの如く考へて、住宅には最早心配を要しない、といふ考を有つてゐる者がある。仄聞する所に依れば、政府の方針も其の如くなつてゐるようである。即ち、斯くも空家が生じて來るならば、最早低利資金の融通を要しないであらう、故に今年は住宅建築に低利資金の融通を手控へようといふような噂も聞へる。併し乍ら、住宅問題なるものは決して、左樣に簡單な問題ではない。空家が少しばかり殖えたとか、減つたとか云ふやうなことで、直ちに住宅問題の解決を畢り、住宅問題が無くなつて了ふと云ふやうな、斷じて左樣に淺薄な、左樣に手輕い問題ではないのである。以上は、住宅供給の問題であるが、斯の問題に伴ふて、現今、我國では將來の住宅の形式を如何にするか、と云ふことに就いても、種々に論議されてゐる。或人は曰く、亞米利加邊りに行はれて居る所のアパートメントハウスと云ふものがある。即ち、一つの建物の中に、數十の家族が住まつて、恰當鳥籠を重ねたやうな風に何階にも住つて居る例がある。是等の例を以て、日本のやうに地價の高い所では、斯の積み重つたアパート式が一等經濟的であらう、從來の如くに平地に延びて許り行くのは、甚だ不經濟であるから、亞米利加流にやつたら可からう、是が我住宅改造の理想であると云ふような論を屢々聞かされてゐる。然るに、近頃に於ては、本編の命題である處の田園都市なるものが歐羅巴に流行して、大層な好評を博してゐる。怎うも田園都市でなければいかぬ、是は、各戸が獨

立した家屋になつて居り、其周圍に相應の庭園もあり、健康の上から見ても、其方が種々の點から見て最も理想的な住宅であるから、此田園都市こそ最も理想的である。田園都市が日本の將來に於ける住宅の樣式である、といふような考へを有つてゐる者がある。是は奈何にも宜しい、住宅問題の解決の一つとして、此處までの論議は無難であり、吾人も亦同感である。けれども、日本の有識階級の中には、此アッパートメントと田園都市を一緒に論じて居る人がある。アパートメント結搆、田園都市も可し。斯うなつては、果して何を言つて居るのか、私には了解することが出來得ない。即ち、どちらへ行かうと云ふのであるか、東へ行かうと云ふのであるか、西へ行かうと云ふのであるか、此アパートメントと田園都市と云ふものは、如何に調和さるべきか、と云ふことは、何も說明して呉れないで、或時はアパートメントが可い、或時は田園都市に限る、斯う云ふ議論を聞くのである。之に依つてみても、如何に住宅問題なるものが了解されてゐないか、といふ事を推想するに足る。

二

次に、日本に於ては、田園都市に就いて、奈何に了解の少いといふ例を述べてみたい。日本の雜誌其他に於て、田園都市は從來屢々紹介されてゐるが、一つの纏つたものになつて、田園都市を日本に紹介したのは、明治四十一年に、內務省地方局有志の名を以て刊行せられた處の『田園都市』と云ふ著書を始めとする、或は、今日まで、此位大きな數百頁の、田園都市のみに關した著述は見當らない。斯の本はお讀みになつた方もあらうと想はれるが、隨分と歐羅巴の田園都市のことを詳しく說明してある、相當に之に就いての知識を與へる處の書冊である。けれども、斯の本の第十三章を讀んでみると、斯の著者は、田園都市を紹介して居ながら、田園都市が解らなかつたのでないか、と思はれる節がある。即ち、田園都市の本當な精神と云ふものが了解されて居らない。折角立派なものが出來たのではあるけれども

斯の中には、田園都市の眞實の精神と云ふものは說明されて居らない。即ち、今、試みに、其一節を引照してみれば、斯ういふ事が書いてある。『平安の舊帝都、即ち京都は山紫水明最も天然の風光に富み、春は東山の櫻狩り、人はさながら雲霞の程を行く如く、秋は西山の紅葉、二月の花より紅なり云々』『時は古今を距て地は東西を別つも田園都市の實體が夙に我邦に現實せられ、今泰西の識者が新に之を唱へて刻下主要の問題となすに至りしは事頗る奇なりと云ふべし。現に人口二百萬を算する我帝都すらも大厦高屋の間自から天然の風物を配して其趣を新ならしむ、人口最も密集せる首都すら、尙斯の如しましてや其他地方の都會に在りては山に倚り水に臨みて遠く之を望めば。人家何れも綠樹の間に隱見したとへ戸毎に農園を備へずとも天然の光景より之をいへば、多くの都市は自ら田園の趣味を帶びざるなし』斯う云ふことが書いてある。是では、何も斯う一生懸命に、英吉利邊りに起つた處の新しい田園都市を紹介する必要はない。日本の京都が斯うである。東京も斯うである。田舍の町は尙斯うである。是ならば、一生懸命に本などを書く必要はない。即ち、斯の著者も、猶ほ住宅問題の眞義を解することは出來得なかつたのである。

日本に於ては、近頃西洋から這入つて來る處の或思想に就いては、どうも歐羅巴から危險思想が這入つて來ると云つて、餘り危險でもない思想を、非常に怖れて居る人がある。然るに往々其半面に於て、西洋のものでさへあらば、何でも結構である、といふ風に默つて之を受入れる。西洋で田園都市と云ふものが非常に宜いと云ふから、それは宜からうと云つて、田園都市を直に受入れ、之を日本に於て實行しようとしてゐる。けれども、田園都市とは奈何なるものであるか、眞相は實際に解らない。危險であると云ふことが能く解らないのに、危險思想だ抔と驚いて、歐羅巴の思想を排斥することも、是は甚だ不都合であるが、何か能く解らない乍ら、名前が田園都市（ガーデンシティー）と云へば、是は宜さそうである、と云つて輸入するのも、是亦甚だ危險なことでないかと思ふのである。即ち、田園都市と云ふものを能く〳〵調べ

て見れば、是は社會主義的の理想にその根本を置いて居る、唯形の上に於て家と家とが離れて建つて居れば田園都市と云ふ譯にはいかない。眞のガーデンシチーと云ふものは、是は全く社會主義の思想に基いて居る。其意義は、田園都市を少しく研究して見れば、解ることである。兎に角、歐羅巴の色々な問題を研究して、之を日本に移さうと云ふならば、如何にしてそれが歐羅巴に起つたか、如何なる思想の傳統に基いて居るか、如何なる部分を日本に持つて來て宜いか、と云ふことを調べた上でなければ、是は甚だ危險なことでないかと思ふのである。

三

一體、田園都市と云ふものはどう云ふものであるか、と云ふことの概要を述べてみようと思ふ。田園都市といふ意味は、場合に依りて之を稍々廣義に用ひ、又場合に依りては――殊に田園都市の運動を起して居る人々は――非常に狹い義に使つて居る。仍て、ガーデンシテイー（ガーデンシチー）を分けて見ると、三つになるのである。即ち、狹義の田園都市と、田園郊外（ガーデンサバーブ）と稱するものと、今一つガーデン、ヴイレーヂー――文化村とでも譯したら宜くはないかと私は思つて居る――と稱するものとである。

即ち、第一の、狹義に於ける田園都市は怎う云ふものであるか、と云はゞ、是は、畢竟、現在の總ての都市が種々の弊害を生じて來るから、全く一つの新しい理想の都市を建設する、といふのである。是等の論者に從はゞ、都市は成長するものでない。建設しなければいかない、今までの都市のやうに段々人口が殖えて、五十萬が百萬に成り、百萬が二百萬に成り、二百萬が三百萬に成る、と云ふのはいけない、都市と云ふものは、新に初から計畫を樹つて、拵へなければならぬ。而して、其拵へる處の都市なるものは、大きなものはいけない、先づ人口三萬か、四萬、五萬、或は十萬位の小さな都市でなければならぬ。斯ういふのである。即ち、斯の論者は、大都市排斥論者で、大都市を撲滅してしまうといふの

である。今日の大都市には種々な弊害が生じ、雜多に姑息な事をやつて居るが、姑息なことをやつた所で、到底いけないから、之を根本的に建て直し、國民の生活を全く革め、さう云ふ大きい都市を消滅させて、それに代る所の理想の都市を拵えたい、其理想の都市は、或一定の限度を越えない。人口に於ては、只今述べたやうに三萬人説もあり、五萬人説もあり、十萬人説もあるが、兎に角、三十萬、五十萬百萬と云ふ都會は一體にいけない。小さい都會を初から拵えるのだ、今までのやうに段々成長して行くと云ふやうなやり方では、決して完全なものは出來得ない。新しいものを新に建設するのである。さうして其都市は初から一定の計畫の下に、中央に皆集る所の市役所であるとか、公會堂であるとか云ふやうな所謂公館區域を置いて、其周圍に商業地域を置き、其周圍に工業の地域を置き、又其周圍に住宅の地域も適當に配置して、尙其外に必ず農業地域と云ふものを拵えなければいけない。即ち、斯の理想の都市に於ては、商業も工業も農業も自足自給に、即ち、其都市だけで總てのものが間に合ふやうに拵えやう。是が狹義な田園都市論者の考である。彼樣な考へであるが故に、必ず農業地帶と云ふものを周圍に置いて、工業と農業とを結び付けた所の新しい社會を造り出さう、斯う云ふ考である。次に、住宅に就いて云ふならば、無論アッパートメントと云ふやうな高層な住宅と云ふものは、住宅として非常に不都合なものであるから、斯くの如きものは排斥して居る。のみならず一エーカー(千二百坪)の土地の中に建てる家屋の數と云ふものを、初から制限して居る。即ち、一エーカー十二戸を超えることはならない。先づ、一軒の家は百坪と云ふ單位でやつて行かうといふようになつてゐる。今一つ田園都市の特長としては、土地を私有權の目的にすることを許さない。即ち土地公有主義なんである。約り、今日の種々な住宅問題の起つて來たのは、土地の私有から起るのであるが故に、之を公共團體の所有にして置く又それでなければ公益法人の所有にして置き、其使用だけを各個人に許して行かう、是に藉りて弊害を防がう、斯う云ふ考を有つて居るのである。

以上が一等狹い意味の田園都市である。斯の事は、申すまでもなく、千八百九十八年にエヴエネザーハワードと云ふ人が『ガーチン、シチイー、オブ、ツモロー』と云ふ書物を書いて世間に發表したのであるが、其以後田園都市問題が盛んになつて來て、實際今日に於ては、斯の意味に於て、二つの田園都市が出來て居る。其一つは、倫敦から三十餘哩離れたレッチウォースである。此レッチウォースの模型が、大阪市の天王寺公園の市民博物館に出てゐるから、御覽になつた方もあらう。此外に、エルウインと云ふ町を拵えて居る。即ち、大都市を排斥して、小さな新しい都市を拵へやう、斯う云ふ考を有つて居るのである。

それで、此狹義の田園都市を主張して居る人々は『都市計畫』或は『田園郊外』と云ふものに反對をして居る。ハワード一派の論者が書いたものを讀むでみると、一體、都市計畫とか、田園郊外と云ふものは是は今までの大きな都市を段々と擴張して行く爲に必要なものである。是は一體獨逸流の考である。それを廢めやうと云ふのが我々の意見である。斯う云ふことを言つて居る。即ち、第二の『田園郊外』と云ふものは、大きな都市の周圍に發達して行く新しい豫定地に就いて一定の計畫を立て、而して、將來に於ける住宅問題の弊害が起らないやうに爲して行かう、斯う云ふ考へである。是と同時に、『田園郊外』に於ては、何も、農業を營むと云ふ考を有つて居らない。主もに、我々の生活上に便利にして愉快な住宅を拵えて行かう、と云ふ目的に過ぎない。故に、狹義の田園都市論者は、それは、怎うも、我々の考とは全然異ふと云ふことを、頻りに說明して居るのである。

四

斯る次第であるが故に、田園都市論と田園郊外の發達と云ふものは、互に相容れないのである。前述の通り、日本の大都會に於ては、例へば東京の上町邊抔には可成り庭園のある家が並んで居るから、是

も田園都市である、といふやうな考へを以て見れば、田園郊外も、田園都市も、何も彼も一緒になつてしまふのである。處が、能く調べてみると、狹義の田園都市論者は、田園郊外に反對して居るのである。仍で、唯今述べたような、從來の大都市を根本的に消滅さして、新しい理想の都市を打立てると云ふやうな田園都市と云ふ考へは、一體怎うして發達して來たか、と云ふことは、是は、英吉利にどう云ふ譯で發達して來たか、英吉利の經濟狀態はどうであるか、又思想の宣傳はどうであらうか、と云ふことを稽へて見なければ、輕忽に斷じて、之が宜いか、悪いか、それに對する批評は出來得ない。仍で、先づ、第一に、英吉利に怎う云ふ譯で斯樣な考へが起つて來たか、英吉利の經濟狀態はどう云ふものであるか、と云ふことを述べてみたい。

英吉利と云ふ國は、一方に於ては、非常な大地主國であり、他方に於ては、都會國である、と云つても可いと思ふ。即ち、段々農村の人口が減つて、都會の市に人間が集つて來ると云ふ狀態である。是は、英吉利の農政、或は土地制度の結果として、起つて來たことである。倫敦には、非常に澤山の人口が集つて、倫敦の人口は、英吉利の人口の二割も占めて居る。イングランドとウエールスで、千九百二十一年の調べに據れば、即ち、大倫敦と稱して居るものに、六百五十萬人住まつて、其外主要な都會を合してみれば、農村に住つて居る者と、都會に住つて居る者との割合は　都會の方に偏重して居り、即ち、都市の方が非常に大きくなつて居る。仍で、都會と都會の間に於ける狀態は、一體怎う云ふ風になつて居るか、と云ふに、是は、英吉利を旅行した者の皆識る處であらうが、所謂農村は、歐羅巴大陸諸國に於て見るやうな農村でもなければ、日本に於て見るやうな農村でも無論ない。大地主があつて、其地主から借りて居る所の地借人があり、其地借人が日傭勞働者を使つて、勞働をさして居るのである。處が段々と勞働者が都會に集中してしまつて、田舍が荒廢し來り、一部分のものは牧場になつて居る。英吉利を旅行して、汽車から外を見ると、青い立派な牧場に、牛だの、羊などが居つて、洵に旅行者に取つ

ては少なからず快感を與へるが、英吉利の經濟界から云ふならば、實は、困つた狀態である。仍で、斯う云ふ狀態を、如何にして救ふか、と云へば、約り、是等の大地主の有つて居る土地を、新たなる理想都市として發達さして行く、と云ふことが最も宜い方法である。即ち、レッチウォースの如き、何方の村へ行くにも三哩程離れて居る、と云ふ所に出來た新しい田園都市である。斯う云ふものを建設するには、一方に於て地主が非常に大きいのであるから、其地主から土地を買へば、相當な面積のものが廉く買へる。レッチウォースの如きは、日本の坪數にして、千六百町歩(四百八十萬坪)の土地を數人の地主から買取つて、而も其値段は、日本の金にして、一坪三十錢、是は日本の何處へ行つたとて、縱むば、田地でも畠でも、斯う云ふやうな所は無論あり得ないが、倫敦から三十哩離れた處に、斯う云ふ土地がある。即ち、千六百町歩の土地を、十五萬磅で買つて、此處に田園都市を始めたのである。英吉利の經濟狀態から云ふならば、斯う云ふ所に、新しい、自足自給の手工的の工業を遣り、又小さな農業を遣る、と云ふ新しい都市を建設すると云ふことは、英吉利の狀態から見れば、非常に必要である。是は、農業の上から見て必要である許りでなく、英吉利の都市の發達が今日まで非常に亂雜であり、大きな都市がずん〳〵制限なく延びて、家の續いた處の單調な町が、段々と中心から周圍へ唯擴つて行く、斯う云ふ狀態である。又勞働者の住宅が種々の點からして非常に不都合なものになつて來る、と云ふことから、一方では都市の住宅を改善しやう、他方に於ては、新たなる農村を建設する。又建設さるべき所の狀態が備つて居るので、斯う云ふ運動が起つて來た譯である。即ち、斯の意味に於て、外の國に田園都市を拵へることは、餘りその必要を認めない。卽ち、大陸の諸國では、狹義な田園都市建設の必要を餘り認めない。日本抔に於ては、尙更な事であらうと思ふ。日本の農業は、一農家の經營地域が餘りに小さい、と云ふことを憂へなければならないのであつて、英吉利のやうな農業政策上の改良と云ふことは、敢て必要がないのである。

五

以上は、英吉利の事情がどう云ふ譯であつて、田園都市が生じて來たのであるかと云ふことを述べたのであるが、それと同時に、一番初に述べた如く、田園都市の思想は、全く理想的社會主義の思想から傳つて來たものである。仍で、先きに述べた通り、前世紀の終に現れた所の、『明日の田園都市』と云ふ事が、英吉利に於ては、非常な反響を得て、それより數年の中に、新たなる田園都市が、次第に建設されると云ふことになつたんである。斯の著書の根柢となつて居る所の思想と云ふものは、決して、斯う云ふやうな新しい思想ではないのである。即ち、十八世紀に於て、千七百七十五年に出た所のスペンスと云ふ人が、土地公有論を唱へて居る。是は、普通の土地國有論と異ふて、それを國で有つと云ふ意見よりも、矢張り地方團體が有つが宜い、と云ふ意見なのである。地方團體が有つて、之を必要に應じ賃貸契約で貸して、その貸す時には、公入札で貸して、是が地代を、市なり町村なりが、即ち、公共團體が徴收すれば可い、斯うすれば、租稅なしで行ける。即ち、地代を以て地方稅に代へやう、更に云ひ換ゆれば、市町村稅を廢しよう、と云ふ考へを有つて居り、是が一つの著書となつて現はれたのである。斯の著書が、千八百八十二年に、最近英吉利でも相當著名な人であるヒンドマンと云ふ社會主義の人が再刻して居る。斯の本を、ハワードが讀んだか怎うか判らないが、兎に角、斯の十八世紀の社會學者が書いたと同じような事が、『明日の田園都市』の中に書いてある。それ許りでなく『明日の田園都市』と云ふのは初め『明日』と云ふ名前で出て、それを、後に改正して『明日の田園都市』となつたのである。

其初めの『明日』と云ふ本を書いた時には、斯の著者は、斯の本も御承知であらうと思ふ。ベラミーの書いた『ルッキング、バックウワード(回顧)』と云ふ本がある。それは(何世紀か後になつて現在を顧みて居る)一つの小說である。斯のベラミーの『ルッキング、バック』から暗示を得て、ハワードは其本に『ツモ

ロー』と云ふ名前を付けたと云ふ話もあるが、要するに、件のベラミーの本は、社會主義の理想を書いた所の一つの小説である。

次に、大都市排斥論や、農業と工業を結び付けやうと云ふ考へは、是は有名なるロバート、オーウエンの試みた所の政策である。オーウエンは、金を集めて、之を始めやうとしたのであつたが、其事は終ひに成功しなかつた。其後に、尚ゼームス、シルク、バッキンガムと云ふ人があつて、斯の人が、十九世紀の中頃に、殆どハワードと同じ考へ、即ち中央に商業住宅地域を置き、其周圍に農業の地域を置いてさうして是が互に助け合つて仕事をして行くのであり、是が我々の理想の都市である　理想の生活狀態であると云ふことを書いた所の本を出して居る。唯バッキンガムの理想として居つた都市は、其當時のクイン、ヴイクトリヤの名に依つて「ヴイクトリヤ」と云ふ名を付けた新しい都市を造らうと云ふのであつたが、其都市は、眞ん中に、四角い公館地區あり、其周圍に四角な商業區域があり、其周圍に四角い住宅地域がある、と云ふやうに、四角いものであつたのであるが、それを、ハワードは丸くした。本に出て來た所は確にそれだけの違ひである。さう云ふ風に、段々調べて見ると、是は、確に英吉利のロバート、オーウエンのやうな社會主義、即ち、過激な革命的なものでなく、極く平和なる理想的社會主義の傳統を有つて居る、と云ふことは明白である。斯う云ふのが、一體極く狹い意味の田園都市である。

仍で、斯う云ふ狹い意味の田園都市をハワードが主張して、其結果、英吉利では、澤山の贊成者が出來て、直ちに一つの都市が出來ることになつた。此レッチウォースと云ふ都市は、今日相當に發達して居る。千九百二十年、即ち一昨年の八月には、人口が一萬二千、大小工場が八十、住宅が二千二百、其外種々の統計があるが、尚瓦斯の消費料を見ると、千九百六年、初めて出來た當時に於ては、五百萬立呎しか使つて居らなかつたのであるが、千九百二十年には、九千六百萬立方呎、丁度大阪の一箇月分を消費して居る。非常な發達である。（文章上の全責任は記者の負ふ處也―郊郎）

右？左？

——道路利用の一問題——

工學博士　田邊朔郎

建築と道路は、不離の關係に在る。若しそれ都市の問題中、道路がその重要な位置を占むる事に於ては、必ずしも異論はあるまい。されば、道路の利用問題は、總て、建築物の問題である、都市そのものゝ問題である。田邊博士、此處に、左側通行制度の本據を探ねて、その疑義を讀者に質さる、蓋し、建築問題と並せ考ふべく、眞摯にして吾人等の實生活に觸るゝ提案である、故に敢て薦む。但し、本編文章上の責任は全部編輯者の負ふ處である＝〈編輯者〉

日本に於ける近來

頻りに宣傳されつゝある處の、左側通行問題は、殊に都市に於ける道路の利用問題として相當研究を要すべき問題である。私は、斯の問題に就いて、必ずしも定見を有つてゐるのでなく、却つて、その制度の本據に就いて、疑ひを有つてゐるが故に、此處に、敢て、讀者の誨へを請ひたいのである。

左側通行なる制度の本據は何であるか、その慣行は何時から起つた事であるか、私としては、種々と稽へてみたのであるが、今の處、何とも判り難いのである。之を揣摩すれば、その本據を古來に於ける日本文明の源泉に置いて、日本の文明は、古來、支那文明が朝鮮を醇化して、其處に多少の發酵を遂げたものが日本に來たのと、直接に支那から輸入されたものと二つの岐點に遡り、或はその淵源たる唐抔に、左側通行の制度若くは慣行があつたかも判らない。又、所謂『天子は萬乘諸侯は千乘』といふ思想時代に、その車が行き會つたときには、奈何に待避するか、即ち禮記抔に斗ういふ議禮を書いてはゐないか、之等の事を調べてみたり、或は種々な人達に質してみたので

あるが、結果は依然疑問であつた。

或人の說では

種々に揣摩されてゐる。例へば、それを武人佩刀の關係に結び付けて、封建時代には、帶刀者の鞘が互に觸れないように左側へ避けたもので、是が最も安全な方法であるから、左側通行は斯の慣行に由來したものである、と說いてゐる人もある。處が、歐羅巴封建時代のヒユータリズムでは刀を佩してゐるから、右に回避しなければならぬ、といふことになる。蓋し、左避すれば、拔き討ちには便利であるが右へ避くればそれが出來得ない。故に右避するを以て最も安全とする。斯れと同じ理由であつて、而も、日本では左側と唱へ、歐羅巴では右側と云ふ。蓋し、吾人の酷だ了解に苦む處である。之を乘馬の場合に就いてみても、輪鞍を用ひた日本流の乘り方では、馬の右側から右足で乘る、然るに、西洋流の馬具で乘るときには、左側から左足で乘る。斯ういふように、交通に關聯した事で、東西その軌を異にしてゐるために、日本では、實際に少なからず不都合を感じた場合があり、又是からも幷うであらうと想ふ。

彼樣に考へて來るに

一體、左側通行が善いのか、右側のそれがほんとうなのか、蓋し、適從する處を知らないといふ結論になつて來る。そらならば、姑くその本源の詮索を措くとして、慣行そのものゝ存在に眼を轉じて見ると、左側通行の慣行を有つてゐるのは、世界中獨り我日本のみ、と云つて可い。尤も、歐洲に於ても、左側通行の慣習は絕對に無いと云ふのではなく、獨、伊抔にも幷ういふ慣習の行はれてゐる處もあるが、先づ大體が、歩人は必ず右側を採ることになつてゐる。少々複雜なる事例は、英國のそれである。英國では、歩道は、右側通行、車道は左側、自ら乘馬で手綱を乘るときは右側、御者となつて手綱を乘るときは左側、轍道は云ふまでもなく左側である。而して、歩道と車道と岐れてゐる處では格別、然らざる場合に於ては、歩行者の背後より、大なる速度を以て走る者がそれを追ひ越すことは、前者がその背後に注意を拂ふ事の困難なるが故に危險である。故に、英人は、歩

者右側通行、車輛は左側通行を以て最も安全な方法である、と云つてゐる。

その他の場所に於ては

歐洲大陸及その他の文明諸國孰も右側通行の慣習になつてゐる。日本で之を眞似たのは軍隊の行進である。然るに、等しく日本の勢力範圍内である處の朝鮮は、我本土と異つて右側通行となつて居り、滿洲でも同樣である。處が、支那に到りては、その慣行甚だ不定である。けれども、概觀すれば、先づ右側通行である、と謂つて可い。

彼樣に觀來らば

左側通行の制度若くは慣行を有つてゐるもの、世界中、唯、日本あるのみ、といふことになる。更らに、之を、建築物抔に就いて觀れば、歐米のそれは、同樣に、その内部が右側通行流義に出來てゐる。日本に於ても、西洋流に出來た建築物は、依然、右側通行流に出來てゐるものが多いように見受ける。

故に左側通行は日本許り

であつて、世界共通な制度若くは慣行でなく、否な少くとも、世界の多くが有つてゐる習俗ではない。斯く慣習の異るために、左側通行に慣れてゐた日本人が、歐羅巴へ往つて、屢々右側通行の人と衝突するの滑稽事を演ずる場合が少くない。その反對に、歐米の婦人が日本へ來て、左側通行の人と衝突するのも亦同樣である。

現在日本では何も彼も世界共通

にするため、例へば、度量衡制度でも『メートル』や『キログラム』に革めむとしてゐる、即ち、思ひ切つて、日本古來の『尺』又は『貫目』抔を廢めようとしてゐる、是は頗る英斷なりと謂はざるを得ない。私は、當局者の斯る英斷序でに、不如、通行制度にも、世界共通に右側通行の事に斷行したら可からう、といふ考へも出ないことはない。けれども、日本に於ける左側通行の制度は、果してどれ程な根據を有つてゐるか、私には、前述の通り何とも調べが附かない。又種々な人達に訊いてみても、滿足する程な說明を得難い。されば、此處に、以上、私の所思を揭げて、大方諸君から相當な誨を賜らば、寔に幸ひである。

「性」と「住宅」

日本建築協會理事長　工學士　橫濱勉

住宅は家庭を抱容する器であつて、家庭は夫婦を基調とするのであるから、性の問題を考慮することも、住宅研究の要素として取り入れることも決して無理からぬことではあるまいか。

性の問題は人生の大要件であつて、國家的にも、法律上からも、宗教上からも、將亦人道上からも重大視されて居る。社會政策の上からも、風紀上から適當に取締られて居る。

苟も國家的に社會風紀上から注意せられて居る問題とするならば、性を基調とする家庭……家庭を抱容する住宅に於ても、風紀的觀念から充分の注意を要すると信ずる。

我邦從來の住宅に就いて考察するに、風紀上からは間取――プラン――の上に於て多少の考慮されて居るに止まり、構造や設備などに殆むど注意されて居らぬ樣である。

徒らに外廓に於て頑固な高塀や、堂々たる門などを構へ極めて閉鎖的であつて庭園や建物の美觀を外部から味はしめるこれを無視してゐるに反し屋内各室の關係は極めてルーズで大体に於て放慢的である

吾人は性の問題を社會風紀の上から稽へて重大視して居るならば、家庭そのものゝ性的機密をも、充分に考慮を要するものと思ふ。

從來の我が住宅のプランニングには、デールームとベッドルームとの區別を嚴格に考へて居なかつた。併し家庭そのものゝ平和と安慰から考へて、デールームとベッドルームとを隔別すべきことを主張する。而してデールームは極めてフリーに、そしよ極めてオープンにして欲しいと同時に、ベッドルームは出

來る丈けシークレットを保たしむやうにしたいと思ふ。

西洋住宅の一般的プランニーグに於て、デールームを階下に取つて、ベッドルームを階上に配置してゐなどは、以上の理由に基因をなすものと考へられる。

或る人はいふ、ベッドルームの嚴格なるシークレットは、却つて風紀上から考慮すべき惡結果を來すものであると。

それは或は一部から察査して事實であるかも知れぬ、要は人にある、各自の人格にある。苟も家庭の基調は夫婦を以てスタートするものとせば、住宅風紀上デールームとベッドルームを區別して、そこにデリケートな家庭の和合を助長し、平和を保護したいものと思ふ。

次ぎに性の衛生上から、住宅研究に觸れて見やうと思ふ。

性の衛生の國家社會的に重視せなければならぬことは、歷史がその事實を證明する。古代羅馬の衰頽からが現在の佛國が比較的國運の振はぬ所以は、主として、この性の衛生が秘密のキーを握つているではないか。

住宅のプランニングに於ても、乃至は室内の設備に於ても、適當なる性の衛生を考へることは、事實上愚なことでなくして、極めて必要なことゝ思ふ。

性の衛生から考へて、住宅のプランニングに於て、ベッドルームとバスルームとの關係を捉へたいと思ふ。ベッドルームとバスルームとは、可及的接近して欲しいと思ふ。即ちなる可く階を同ふし、ベッドルームを階上にとるを原則とするならば、バスルームも同じく二階に取りたいのである。相成るべくは相互隣接して欲しいのである。斯くてトイレットもバスルームに併置することが出來れば極めて妙である。而して、それはプランニングなどの考へから極めて可能性を帶びてゐることは、洋式住宅のプランニングがその實證を與へて居る。

清潔は衛生の基調である。バスルームはお化粧やおしやれの目的の爲めに設備されるものでない。將た亦レクリーションの目的のみに設備されたものでない。要は肉体の清潔を目的とする。

更らに話頭を進めていふが、從來性の問題は人も我れもデリケートな問題として、一般的に公言をはゞかつて居たものである。近時——進歩か退歩かは知らぬが——漸くその公開的傾向を認めるやうになつて來た場合に、時、偶々我々同人は『住宅改造の急務』なるモツトーを掲げて、其宣傳を努めて居る機に際會し、極めてデリケートな性の問題に觸れ、住宅改造の一端を述べた次第である。

松茸のかをりを
臭げば村住みの
友がこゝろに
觸るるおもひす



米國に於ける貸金庫（セーフデポジットボールト）見聞記（一）

野村藤吾

これは昨年滯米中各地の貸金庫の實狀や直接メーカーについて見聞したことや實際に日本で之れを取りつけた經驗について聊か書いて見たいと思ひ立つたのである。

セーフデポジットボールトは日本で保護預り又は貸金庫と言われて居るから暫く此の言葉を用ひることにする、言ふ迄でもなく保護預りとは貨幣貴金屬類、主要書類、有價證券、書畵骨董の類を有料にて保管するものである、近來銀行建築の更新と共に己に二三の銀行は之れを直接外國から取り寄せて据附くる計畫があり現に吾々の關係せる日本信託銀行の新館には日本最初の丸扉を有するセーフボールトを完成し、東京丸の內の日本興業銀行の本館には更らに大なるものを先頃完成した、聞く所に依れば東京の正金銀行にも同種のものが取り附けられるとのことでこれから先き苟も大銀行と言はれるものは、セーフボルトを持つことが一種の流行になつて來ないとも限らない徵候が見

えるが、日本ではセーフボールトを利用することがまだ一般に知られて居ない様だが、彼地では労働階級の人にでさへ大に之れを利用して居るとのことである、昨年私がボストンで調査した結果に依ると次の如き統計を示して居る。

(A) Boston 市内に 90 の safe deposit Vaults があるその内函數 2000 を有するもの 20. 1000 を有するもの 20. 500 を有するもの 50 合計 85.000 の函數である. 今 Boston の人口を 800.000 とすれば函數は人口の約 10% となる之れを銀行別にすれば

(B) Boston 市内大貯蓄銀行では客數の約 2½% ～6% が貸金庫を利用して居る

又

(C) Commercial Bank (soving department を有せざる) では. 客數の約 25% ～30% の人が利用して居る

(D) Hingham (Boston より 17 miles の所にある小都會) 500 の safe deposit bores があり人口 5000 に比し 10%

(E) Malden (Boston より 7 miles) では函數 3000. 人口49.103 に對し約6%

(F) Portsmouth, N. H. (Boston より 60 mils) では函數 3000. 人口 13.500 に對し 27.5%

之れは昨年九月二十一日 Boston に於ける調査で其の結果大体に於て人口の一割内外がデポヂットの客であることを示して居る

以上の結果から推しても分かる様に米國では、之れを利用する傾向が盛んに又次第に一般的となりつゝあるものと解せらるゝのである。國情などの異なつて居る日本で、今後大に之れを利用する傾向を生ずるかどうかは專門外である私にはわからないが、彼地の狀況などから推察して日本でも之れを利用することが便利であり、且つ將來には次第に需用が增すものと見て差支あるまいと思われる。而し何分日本ではセーフボールトさへ見たことのない者が多く、謂んや之れを取附けや又は建築などんな關係にあるかと云ふことについて殆んど何等の智識も經驗もなかつたと云つても過言ではあるまい、尤も大銀行などで各自小規

模の保護預を兼營して居れど、これは本物のそれに比し到底問題にならない位のものであつて、實地の設計には勿論何等參考になるものはなかつた。又學校時代講義で大体のことは承知し、尚實地設計に當り多少調査もし、又研究もしたのであるが實行の場合となれば、種々不明の點が多く、殊に最近米國に於けるセーフボールは非常に發達したものであつて、講義の智識や多少の研究などでは到底追附けそうにも思へなかつた。從而最初日本で計畫したことが歸朝後種々の誤謬を發見した様な次第である。私が米國で初めてセーフボールを實地に見たのは、例のエクイタブルの地下室にあるものであつた。實際寫眞で見たのとは非常に感じが異がひ、一見してその構造の雄大なのに驚いた。此の邊は何分紐育に於ける否世界に於けるフイナンシアルセンターのことでもあり、之れに關する種々な設備を見せて貰つて先づ最初に、度膽をぬかれた様な次第である。それから各地名所のセーフボールやバーグラーアラームシステム即ち非常報知器其の外之れに附屬する設備を見るに及んで益々感心させられたが又一方こんなにしなければ保管の安全を期し得ない米國の社會狀態の危險と、日本の夫れとを比較して今更らの如くその差異の甚だしいのに驚いたわけである。米國では大底の場合セーフボールは半公開して誰れにでも嬉んで見せて居る様である。これは一方に於て自己の安全を廣告する商略である。

最初私の不思議に思つたのは何故に斯く丈夫なそして完全過ぎる裝置を要するかと云ふことであつた。これは勿論或る程度迄では商略上設備の完成を促したことにも依るが又大に彼地の社會的不安に原因して居ることにも關係がある。日本人の頭には想像もつかない位な大仕掛な盜人やその團体がたへず社會を脅かして居るその手段方法の奇計にして進歩せることは實に驚くべきものがある、そこで彼地のセーフボールの發達は裏面に在て以上の警察的不安の增加を意味して居る。之れを知らなければ私達日本人の目には暫く此の塊偉なシロものが謎である。だから私は此の方面から私の心に經驗したまゝを書くことゝしよう。

◇◇◇◇◇

お祭りの様な人込みのなかをかきわけて私は再びエクイタブルビルデイングのなかに間借りして居る正金銀行に小使錢を取りに行つたものだ。何のことだか知らないが金儲けには頗る縁の遠い吾々一建築赤毛布には混濁した人の息と字義通りにめまぐるしい群衆、肩と肩と擦れ合ふ位な雜踏とは、その頃の私には解しがたいものでおつた。何の爲めに働くのか、さつぱりわからなくなる位だいつもなら呑氣そうな米國人だのに、此の邊ではまるでどれもこれも猶太人の様に、いやに利定つた顔をして居る。而し、人込みと私とは無關係だ。建築のことなら便所の隅までも一々手帖に書きとめまじき私だもの、ある時その人込みの最中にぼんやり立つて、今から考へれば大していゝとも思はぬ丸天井の隅つこの方を念入りに眺めては感じ入つて居たのに不思議はない。紐育ッ兒の目に映じた私の姿や、間抜けた顔を想像すると今でもハッと思ふ位だ。すると、私の体をドンと横に突きやつたものがあつた。氣かついてよく見ると、六尺豊の大男が何者かの通行に道をあける拍子に私の体につきあたつたものとわかつた。これが日本なら小言の一つも決して言ひ兼ねはせぬが、そこが他國人の遠慮心に、こちらがあの蒸し返へる様な人込みのなかにぼんやりして居たのだから文句の言ひ様もなく、言つたつて言へもせぬ代り眼で知らせると、もう、その男は人込みの中にもまれて居た。一体何のためにあの男に道をあけたのかとよく見れば、屈強の男が左右前後を物々しく警護しながら、箱の様な帆布の袋の様なものを重さうに持ち運んで居た。片手に腹股の邊りに吊して短銃を握り占め、片手にその袋を左右から二人掛りで持ち、他の二人が前後を守つて歩いて居た。男達の威勢の物々しさ、いざといはゞ打ち殺しても使命を達せん物腰しは全く日本で見れない光景であつた。言ふ迄でもなく箱の中には正金が呻て居るのだ。

私はあとからその男等の姿をじつと眺めて何といふ物騒な亞米利加かなと歎息稍久しからざるを得なかつた。小使か人夫の様な男が、丈夫そうな木

製の金箱を車にのせて、守衛が一人か二人呑氣そうにつき添ふて行く姿を私は時々日本で見たことがあるが、何と云ふ違つた光景だらうと平安な日本の社會を懐ふた位だ。エイイタブルのロッビーでぶつかつた此の光景は、先づジゴマの活動寫眞を見る樣な感じがしたと云つても誇張ではない。事實彼地では全々警察のお巡りさんなどの活動にのみ信頼し、枕を高くして自己の貴重品や財産などを保管して行くことについては少なからざる不安か不便がある樣だ。

警察の御厄介になる時はもう駄目な時だ。それ以前に警察力以上に打つても衝いても切れもこわれもせぬ何物かに保護して貰わなければ安心が行けない位、物騒な社會狀態で。如何なる新聞も日に幾件かのホールドアップの記事を掲げて居ないものはないとのことで、ある時、貴金屬屋の主人が下町の人込の中をおし合ひへし合ひ通つて居たそうだ、すると周圍の人々が丸く輪を造つて、その男が堅いペーブメントの上に打ち倒れて居る姿を取り圍いて居るのに氣が附いた時には、その男の息の根は切れて居たそうだ。多分曲者の強奪をうけ損じてホールドアップを喰つたものだらう。それは白晝瞬間の出來事だつたそうだ。ある若い男が、自働車を買ふ可く、ある店に行つた、値踏みがまとまつて、いざ試運轉となつた、店の二人(多分そうだと思ふ)が同乘しその若い男がハンドルを取つてドライブをやり出した、自働車の姿は並木の中に消えた。すると數日後の新聞には同乘の二人は慘殺され自働車は勿論その若い男のものとなつて居たのを、警察の力で漸くひつ捕へたことや、その若い男の悲慘な家庭の記事など面白く書いてあつた。これは私が九月中旬、加奈太のムースジヤウからシカゴに至る「シカゴスーライン」の汽車中で見たことだ。勿論退屈な車中ではあり非常な評判だつた。私がこれを書く目的は、それがやはり白晝の出來事であつたこと、やり方がてきばきして居るからだ。やり方がてきばきして居ることの例で今一つ最近紐育下町の金權の中心地で起つた出事を書いて見よう、私達は町を暗記する爲めにも亦建物を寫す爲めにも最も便利な日

を日曜と決めた。それは日曜丈けはトラフィックが少ない爲めに寫眞を撮るのに至極好都合であるからだ。そこで大抵の日曜は町から町へと寫眞行脚したものだ。週日中さしも火の出る樣な下町の雜踏でさへ、日曜ばかりはひつそり閑として氣味が惡い位だ。ある日曜の午後同僚のN君と一所で私はモルガン銀行の角に立つて居た。銀行の入口には立派なプロシズ製の格子がある。私はいつからかその格子を撮らうとねらつて居たのだ。カメラのシャッターが將に動かんとした切那私の腕をムヅと摑んだものがあつた、と見ればそれはある日の夕方、モルガンライブラリーの前で、はからずもホテルの事から立チ話した男と同じ男であつた。無論彼れは好意ある眼附きで無斷撮影を禁じたのだ。言ふ迄でもなく一見して彼れが刑事であつて此の建物を警戒して居るものと知つた。而しそこは偉大な亞米利加人である。シガーと Could you kind enogh to……丈は此の場合交換的になくてはならないものだ。

わけを話すと宜しいと言ふ。撮つてしまつたあとで、彼れの話しに依れば、先達て銀行の前で爆彈を投げたものがあつた、そして何十人かの死傷者があつた、その跡は此處だと云つて銀行の根石の破壞されたあとを指した。勿論話すにも聞くにも眞にあやしげな英語のことだから詳しいことは忘れたが要するに爆彈の目的は金を獲んが爲めだつたそうだ。その行動が如何にも短刀直入的で、ぐず〳〵して居ない點は頗る現代的だ。地中を堀り貫いて地下室の金庫を破ると云つた樣なことは、己に近代米國式盜人の手段としては頗るもどかしい事で、何でもよいから爆彈を投げつけて置いて人を殺しを恐怖せしめ人ををどしつけ、又はどさくさまぎれに金を持つて行くと云ふやり方だ。こうなると警察も頼みにはならない。まるで金權と否金權の戰爭だ、だから鐵砲でも爆彈でも飛行機でも壞されないものが必要なことゝなる。

或る貴夫人はほん物のダイヤモンドを指に嵌め居ると命が危いからほん物は保護預けとして置いて一見それと同樣な僞物を常用して居ると言つた滑稽なことになつてくる。

ごんなことを考へると日本に居る事が多少有難くなつてくる、警察が無能だなんて言われなくなる。見様に依つては日本の盗人が米國のそれの様に退化しないことにもなるが。ともあれ世の中の物騒千萬な有様を知つて貰ふ爲めに二三の例を擧げたのである。

私は何故に米國に於けるセーフボールトや報知器などが發達したかは詳細に知らないが、厚さ十數吋乃至それ以上もある様なまるで大砲の閉鎖機の様に恐ろしく丈夫な扉や、極度に精巧な非常報知裝置や、其の他種々の盗人避けの設備などは日本人には到底解し得ない位不必要なものに思へるが一度彼地の狀況を見るに於ては必らずしもその不當でないことがわかるどころではない、もつともつと丈夫にする必要が今後起つてくるものと思われるのである。無論それは客の安心を買ふ爲め即ち營業上のポリシーとして必要以上に發達した點もあろうがこれから益々物騒になつて行く様な社會不安の狀態にはその必要は必らず強調されるにちがいないと思ふ。

先般日本信託銀行の地下室に日本最初の圓扉を有するセーフボールトが出來上つた。扉の直徑八十吋厚さ十六吋である。初めて見た人は誰れ一人として驚かない者はなかつたそうだ。今日の日本の狀態から云へば稍、聊か過ぎたるの感があるかも知れない、而し今日の日本を見て決して安心はされない十年後の日本はどう變化するかわからないでなくとも苟も他人の物件を保護預りする以上安心して客が銀行を信頼する爲めにはいくら丈夫であつてもいゝわけである、謂んや社會狀態は刻々に惡化せんとも限らない徴候光が見えぬでもないに於てをやだ。

事を先んじて得るを後にす。

建築物の內外に於ける日射關係幷に『サナトリウム』建築上の應用に就いて

京都帝國大學醫學士　富永　孟

第七章　年內に於ける受熱量の變化、並に一年間に受くる總熱量の比較

第一節　日赤緯の變化に伴ふ日の高度、日出沒方位、並に可照時數の變化

26日々に於ける日赤緯の變化は均等ならず。從て日々の太陽高度、日出沒方位、並に可照時數の割合も亦均等ならず。平分前後にありては日赤緯の變化大なるを以て後者の變化も亦大なれども二至に近き頃に其等の變化は比較的僅少なり。既に第一章の終りに注意せし所なるが、猶欠に日赤緯δが5°毎の移動を爲すに要する日數を掲ぐ(1)。

第十三表　日月の惟移に伴ふ日赤緯の變化

日赤緯	−23°27′	−20°	−15°	−10°	−5°	0°
日／月	22/×II	21/I	9/II	23/II	9/III	21/III
（前欄ヨリノ日數）	—	30	19	14	14	12

日赤緯	0°	5°	10°	15°	20°	23°27′
日／月	21/III	3/IV	17/IV	2/V	21/V	21/VI
（前欄ヨリノ日數）	—	13	14	15	19	31

即ち平分前後にありては日赤緯5°の變化を爲すに二週間を要するに過ぎざれども、二至に近づく時は僅々3°5を移動するに一ケ月を要するを見る。

27正午に於ける太陽の高度hの變化は緯度及び日

赤緯の函數なり。

即ち

$$h = 90° - (4 - 8) \cdots\cdots (27)$$

或る日に於ける可照時數は公式(16)に示す如く半日弧を T とすれば

$$\cot T = -\tan \delta \tan 4$$

其日の可照時數は2Tに相當す。

日出の方位は公式(2)に $h = 0$ と置き

$$\sin A = \frac{\cos 8 \sin t}{\cos h} = \cos \delta \sin t \cdots\cdots (28)$$

(1)大正九年航海年表上卷　海軍水路部發行

次表は北緯 35° の土地に於て平分日を基とし、これが 5° 宛の變化を爲す時、それ〳〵正午に於ける日の高度、日出の方位並に可照時數增減の割合を示したるものなり。

日赤緯	0°	5°	10°	15°	20°	23°27′	計
高　度	55°	+50′	+ 5°	+ 5°	+ 5°	+3°27′	+23°27′
日出方位	東	— 6°5′	— 6′8′	—6°11′	—6°16′	—4°25′	—29°6′
日出時刻	6時	+14分	+14分	+15分	+16分	+12分	+1時11分

但しこが南なる時は各項の値は附號を異にす。

日出方位は東より北を(一)として記せり。

斯の如く日赤緯の變化に伴ふ各項增減の割合は可成り均等なり。然れども日々に於ける日赤緯そのものゝ變化が季節により頗る不均等なる結果（第十三表參照）上表の變化を日々に配する時は之亦不均等と成るは當然なり。爲に各窓の受くる日々の熱量の變化も亦不均等なり（次圖參照）

第二節　年內に於ける受熱量の變化

28 前項に述べたる理由に基き各窓の受くる日々の熱量の變化を考ふるに、平分前後にありては短時日の經過中にも比較的大なる增減を呈すべく二至に近き頃は大差無かるべきは容易に想像し得べし。從て單に二分二至に於ける熱量のみを見て年內に於ける受熱量の變化を想像し得たりと爲すは早計なり。

年內に於ける受熱量の變化を成る可く精確に知らんが爲に、余は日赤緯 5° 毎（平均二週間毎）に各窓より入る一日中の熱量を計算せり。即ち今迄述

べ來りたると全く同一の順序を繰返し、(24)(25)の公式に基き一日中に受くる總熱量を秤量法によりて求めたり。次表に其結果を示す

日/月	緯 日赤緯	S t	S JT	SE t	SE JT	E t	E JT	NE t	NE JT	N t	N JT
22/XI	−23°27′	9h 8m	81.1	7h 4m	53.4	4h 7m	16.5	·31	0.007		
21/I	−20°	10h 0m	81.0	7,87	57.7	4.20	21.1	·59	0·05		
9/II	−15°	10h 4m	76.7	7,12	59.5	4.41	25.6	1·36	0.9		
23/II	−10°	11·4	72.3	7,16	62·1	4.51	30.8	2·11	2 0		
8/III	− 5°	10.29	64.5	7.20	61.1	5.17	35 9	2·45	5·0		
21/III	− 0°	9.26	50.0	7,23	59.0	5.34	41·0	3·17	8 3		
3/IV	5°	8.32	42.8	7,27	55.5	5.51	47·3	3·50	13·3		
17/IV	10°	7.36	29.2	7.30	51 2	6.9	51·2	4·23	18·9	·6	0.2
2/V	15°	6.46	21.1	7.35	42 8	6.27	53.4	4·58	24·5	·51	0.2
21/V	20°	5.30	12.2	7.40	38.9	6.47	57.8	5·35	32·2	1·40	1·0
21/V	23°27′	4.40	7·3	7.43	35.0	7.1	59.9	6·4	38·7	2·17	2·3

t 日射時間　JT 一日中に受くる熱量の比

上表に示す受熱量の値を曲線を以て表す時は更に良く其變化の模様を明瞭ならしむ(下圖)

第六圖

前表に據り吾人の注目すべき點次の如し

I. 日射時間の變化は南窓を除くの外は太陽の北上と共に漸次に增加する事。その增加の割合は日赤緯5°の變化毎に東南窓約4分、東窓二月以後15分、東北窓32−37分、北窓は四月中旬以後50分なり。

註　可照時數の變化は第十四表に示す如く日赤緯5°毎に大約30分なり。

獨り南窓にありてはその最長は二月下旬（並に十月二十日前後）にある事、從てその增減の割合は二月の最長に達する迄は約30分の割合を以て增加し、以後は約1時間の割合を以て減少するを見るべし。

2. 受熱量の變化

南窓にありては冬至の受熱量は年內の最大にありて30單位を越え、それより一ケ月を經過するも殆ど變化なく、二月下旬に至るまでの極寒期に於てすら7單位を越え、春分後は日射時間の減少急激なる如く受熱量の減少も亦急激にして、夏至にありては10に滿たず　南窓は實に外界氣溫の高低に應じ自ら適度の室溫調節を營めるものと謂ふべし。

東南窓にありては冬至50單位以上の受熱量ありそれより逐次增加して二月下旬（併に十月二十日前後）年內の最大に達し(62·1)のそれより春分に至るまでは殆ど變化なく、以後減少して夏至の最小に至る。東南窓に於ける日射熱量の變化は南窓の如く甚しからずと雖も、其增減は南窓の如く外界氣溫の高低に應じ比較的室溫の調節に適するものと謂ふべし。

東窓及び北西窓に於ける受熱量の變化は略相似たり。即ち20—30單位の差を以て兩曲線相並行せるの觀あり。而して年內の最少は冬至に在り、その最多は夏至に在るを以て、其變化の有樣は南窓又は東南窓と全然逆なり。換言すれば東以北の窓にありては外界氣溫の高きに從ひ、受熱量を增すのみならず、盛夏の候にありても東窓30單位以上、東北窓20單位以上あり。

北窓より朝日の射入し始むるは何日よりなるかと云ふにその際太陽の日出方位と窓との爲す角の大さは78°42′(東より北11°18′)なり。こは何日なるかと云ふに

$$\sin\delta = \sin h \sin\varphi - \cos\varphi \cos A \quad \cdots\cdots (29)$$

$h=0,\ \varphi=35°$ とすれば

$$\sin\delta = -\cos 35° \cos(90° + 11°18')$$

$$= -0.1605$$

$\therefore \delta = 9°14'$

δ の値が $9°14'$ と成るは四月十四日及八月三十日なり。故にその期間即ち 140 日間は日々日射を受く。

北窓の受熱量が最大に達するは夏至にして僅に 12.33 單位に過ぎず、されど外界の氣温は夏至以後年内の最高に達するを以て室内は日光の直射に堪へず。

3. 受熱量の變化最も甚しきは南窓にして夏至の最少にありては北窓に次で他の何れの窓よりも寡く、冬至の最多にありては他の何れの窓よりも多し。

東南窓の受熱量曲線は最も特異にして年内に二回の最高最低を繰返し、然もその高低の變化は比較的僅少なり。東窓に於ける變化は恰も正弦波の如く規則的の高低を繰返し、西北窓は秋分より春分に至る半年間は始ど0に近く、春分以後急に高さを増して夏至の最高に達す。故に其變化は半箇年は緩徐にして半箇年は急激なり。北窓は殆ど掲ぐるに足らず。

4. 受量熱の變化が日射時間の長短に伴ひ増減するは東より以北の窓にあり。南窓にありては日射時間の長短に關係なく冬至の際最大にして、それより以外の季節にありては太陽の北上と共に減少す。東南窓にありては日射時間は太陽の北上と共に逐次増加するに拘らず受熱量の最大は二月下旬にあり。

第三節　一年間に受くる總熱量の比較

29. 一年間に各窓の受くる日射熱量の比は前記の曲線と x, y 軸との圍む面積の比を求むれば可なり。されど吾人は必ずしも年内に受くる熱量の總和が最大ならん事を望まず。夏季にありては寧ろ其直射に堪へざるを以て各季節に應じて比較するを可とす。

茲には春分より秋分迄、及び秋分より春分までの二大季節に區別し、その各に就て考ふべし。

春分に南窓が一日に受くる熱量は 50 單位あり。こは $38.4 \times 50 = 1920$ 呎『カロリー』に相當す。今この單位に相當する熱量を y 軸に、一時間に相

當する長さをx軸に取り、南線を二邊とする面積をS，同窓が半箇年間に受くる熱量に相當する面積をSとすれば

$$1920 \times \frac{S}{s}$$

は同窓が半箇年間に受くる熱量となる。南窓が秋分より春分に至るまでの半箇年間に受くる總熱量は余が上記の計算法に據れば51萬瓧『カロリー』あり。次表にては同季間に南窓の受くる總熱量を100單位として各方面の窓を比較せるものなり。

第十六表　半箇年間に各窓の受くる日射熱量の比較

窓	春分ヨリ秋分迄	秋分ヨリ春分迄
N	1	0
N.E	32	2
E	69	35
S E	58	78
S	30	100

即ち秋分より冬至を越えて春分に至るまでの半箇年間にありては南窓の受熱量最も多く。窓の方向が南より遠ざかるに從ひ受熱量も亦減少するを見る。春分より夏至を越えて秋分に至る半箇年間にありては南窓の受熱量は他の半箇年の30%に當り、東窓及東北窓の受熱量は他の半箇年より却て大なり。就中東窓は最大にして約70%あり、北窓は僅に1%なるを見る

第八章　日射時間、日射面積及び日射熱量は室内に於ける日射關係を知る必要なる三要素なり

30. 一般に日照量（Atkinson の所謂 Quantity of Sunlight）大なる時は日射熱量も亦大なるは明かなり。されど日照量大なる場合必ずしも常に受熱量大なりとは謂ひ難し之れ日照量は太陽の高度成るべく低くして窓の正面よりの照射時間長き時に最大なるも、單位面積が單位時間に受くる熱量は之に反して太陽の高度成るべく高き時に多きを以てなり。一日中に受くる總熱量の關係に至りては頗る複雜なり。かの南窓が冬至の一日に受く

る熱量は他の何れの窓が如何なる時季に受くる一日の熱量よりも大なるを見ても明なり。斯の如く假ひ同形同大の窓に於てすら季節と窓と方向とを異にするに從ひ、それぞれ日射時間の日照量及び受熱量を異にす。從て單に日照量のみを掲げて各窓の日射關係を比較せんとするもこは未だ不充分なり。寧ろ受熱量の比較こそより必要にして適當なる方法ならんと信ず。

假ひ同面積の窓にありても其高さと幅との比、及び壁の厚さ如何に依り日射關係は全々相違す。故に是等の要件に就て先づ相互間の比を知るは必要なる事なり。次に時刻に於ける日射面積（日射量に非ず）を測定するは之れ日射熱量を知るの道程なり。即ち日射面積と日射熱量とは主從の關係あり。日射時間亦然り、故に三者其一を缺く事を得ず。余はかゝる理由の下に日射時間、日照面積及び日射熱量を室内に於ける日射關係を知るに必要なる三要素なりとし、特に其熱量の比並に各季節に於ける熱量の變化に重きを置くを正當なりと思考す。

汝一歩を
加へて之
を長から
しめよ

佛蘭西に於ける美術工業の新運動

××× 歐洲に於ける美術工業の變遷と ××× 各國に於ける新運動 ×××

美術工業の諸問題 (4)

——建築裝飾としての美術工業品に就いて——

川村種三郎

第十七世紀の中頃に Académie Royal depeinture depe sculpture 及び Académie d' architecture が巴里、マルセイユ、ボルドー等の重要都市に創設せられ Manufacture royal des meubles de la couronne がまたこの時設置されたのである。併しながら佛蘭西に於ける恐怖時代は此等の設備を破壊すると共に美術工業の發達を阻止したのである。そして第十九世紀の中頃まで佛蘭西の美術工業は著しい光彩を發揮せず唯從來の情勢によつて進んで來たのである。

一八六二年の第二回萬國博覽會に於ける佛蘭西革命による社會支配階級の移動によつて支配權が貴族階級から剝奪されると同時に此の階級の保護によつて發達した美術をも破壞しようと企てられた。多くの美術家は國外に放逐され、佛蘭西固有の美術趣味は全く蹂躙されたのである。

Louis XIV に到るまでは內外多事であつた佛蘭西は美術に顧慮する餘裕なく、美術工業は手工業者の獨占のまゝに放任されてゐたのであるが Louis XIV の時 Gillemarie Oppenord, Antonie Watcau 等が出て再び美術工業の發達に努力したのである。

美術工業品の拙劣と獨逸、米國等の發達を見ては當局に於ても從來の放任主義を持續することが出來ないので專心美術敎育の再興を主唱し Francois de Neufchateau, Charles-Ernest Clerget, Alfred Chabal-Dussurgey 等は美術工業品博物館、美術工業學校の設立を極力主張したのである。

一八六一年に Antonin Proust の斡旋によつて第一回の美術工業品博覽會が巴里で開催されたが一八六三年に再び第二回を開催しこの時 Union centrale des beaux-arts appliques à l'industrie を組織したのである。

此の會の目的は實用品の美術的趣味、其の生産手段、近代工藝の性質、生産條件、博物館圖書館の設立等美術的趣味の普及にあつた。

其の後 Andre, Bouillet 等が幹部となつて一八七四年及一八七六年に美術工業品の博覽會を巴里に開催した。これより前一八七三年に Union centrale des beaux-arts appliqués à l'industrie に對抗して Société du musée des arts décoratifs が組織され新進の人々によつて新運動を起したのであるが一八七八年の巴里博覽會には英國の美術工業の地位は最早動かすことが出來ないものとなり硝子及陶器工業に於ては從來の佛蘭西製品よりも遙かに優秀なものが製作され佛蘭西の木工具、金屬製品も英國製品に壓倒される樣な悲境に立つたのであるから美術工業の復興の聲は次第に嚴しく Union centrale des beaux-arts appliqués à l'industrie と Societi du musée des arts decoratifs とは其の目的への進行の爲めに一八八二年にて兩者合一して Union centrale des arts décoratifs を組織したのである。政府は英國の National Association for the advancement of Art in relation to Industry に倣つて一八八九年に Société d'encouragement à lart et a l'industrie を設立して英國の美術工業と對抗しようと試みた。此等の努力は此の年開催された萬國博覽會に具體的に顯れたのである。

尙 Bing, Meier Grafe 等によつて商業的にも發展し、機關雜誌として Art et Deco ration, l'Art décoratif が發刊されて、美術工業革新の運動は

着々其の結果を收得したのである。

一九〇〇年の巴里博覽會には Pavillon de l'Union central des arts décoratifs, Bing's Maison de l'Art nouveau の二つが佛蘭西の美術工業の中心を形成するものとなつたのである。

これより前一八九〇年代 Horta, Hanker, Serrurier 等は Van de velde の下に集つて一樣式を開き S. Bing は此の新樣式の普及發達に努めたのであるが一八九〇年の末葉 Gaillard, Colonna 等は Bing の下に Meier-Grafe は Vaude Velde の下に相共に新美術についての研究に努め一層氣勢を添へたのであるが今年新樣式の反動期に入り Louis XIV より Louis XVI の樣式の復興となつたのである。我々は今獨逸及墺太利に於て勃興してゐる新しい一樣式によつて佛蘭西美術工業が如何なる影響を受けるかを見守るのは誠とに興味あることゝ思つてゐる。

獨逸及墺太利に於ける羅術工業の新運動

ナポレオンの普魯西蹂躙は國民生活を破壞の狀態に陷入らしめたのみならず、此れに根ざした美術工業にも重大な影響を及ぼしして、美術工業の衰退は益々甚しく唯佛蘭西趣味の摸似のみ事としてゐたのである。

此の沈滯してゐる狀態から國民一般の趣味向上に資する爲めに一八六六年に Kunst und Gewerbemuseum を伯林に設立する計畫をたて一八八一年になつて Knnstgewerbemuseum と命名されて其の附屬學校と共に開館されたのである。それより前一八六六年美術工業の奬勵を目的として其の機關雜誌 Zeitschrift fur bildende Kunst が發刊されたのである。

普佛戰爭によつて大捷を得て後は獨逸國內の統一も次第に基礎を固め、國民生活も漸次安定を得るにつれ美術工業に關する書籍も盛んに出版されこれの救育の促進、展覽會の開催等を目的とする美術工業家の團體が各地に組織され、一八八六年には統一ある一大團體となつて目的貫徹に努力したのである。

一八九八年には一八九七年に開催された展覽會を好期として Munchener Werkstatte fur Kunst-

und Handwerk 及び Dresdener Werkstatte fur Handwerkskunst を設立し、第十九世紀の終末には Alexander Koch の Deutsche Kunst und Dekoration 及び H. Bruckmann と J. Meier-Grafe の Dekorative Kunst, Vande Velde の Zeitschrift fur Innendekoration の三種の雑誌が發行され尚第二十世紀に入つて Ernst Ludwig の援護のもとに Darmstatter Kunstler-Kolonie が成立されたのである。

これ等の美術工業の新運動の巨頭として Lichtwark Muthesius, Van de Velde 等を擧げることが出來る。

これ等の美術工業の革新は豫期以上の効果をあげて獨逸美術工業を世界的のものとしたのである。

Melchior Lechter の硝子諸器具の製法の改良 Ludwig von Hofmann の壁畵、Harmann Obrist の縫箔、Otto Eckmann の壁毯等は特に注目すべきものである。一九〇四年及一九〇六年に St. Louis や Dresden に開催された展覽會には面目を一新した獨逸の美術工業品が一段の光輝を發してゐたのである。我々は此等の新運動が多くの製造業者や販賣商から多大の迫害を受けてゐたことを聽いてゐる。然しながら此等の運動が最近次第に極端化されたのは大戰による影響にも起因するは明かであるが戰前すでに此の徵候を認めることが出來たのである、今表現主義の勃興による美術工業を考ふる前に、大戰前までの墺太利の美術工業の狀況を述べてみたいと思ふ。

墺太利に於ける文化の中心である維也納に美術工業も發達したのである。一八五七年維也納の市街擴張による大建築物の建設により建築美術の旺盛に伴なつて其の内部裝飾としての美術工業も發達の域に達したのである。一八六二年の倫敦に於ける博覽會は墺太利の美術工衆覺醒の叫びに役だつて其の翌年 Oesterreichisches Museum fur Kunst und Industrie の設立に着手したのである。

一八七一年に完成してこれと共に美術工業品製作所をも併置したのである。此の Museum の館長として此の建設よりの主腦者 Eitelberger が就

任したのである。

此の頃斯界の有力者は A. Guauth, L. Lobmeyer, W. Hoffmann, I. Storck, V. Teirich 等である。前述の Museum には G. Storm, F. Sturm, M. Rieser, A. Hauser 等を招聘して美術工藝學校の創立、工業に關する書籍出版、講演會の開催等の事業に從事せしめ機關雜誌 Mitteilungen des Oesterreichischen Museums を發行して美術工業製作の奬勵と設備の完成に努力したのである。此等の努力により生產品の上にも多大の改良が加へられ一八七三年及一八七八年の維也納及巴里の博覽會には其の結果は充分に證せられたのである。

其の後 Eitelberger の館長辭任の後を受けて一八八六年 Falke が其の職を次ぎ一八九五年 Bucher がこれに代つたのである。

墺太利に於ける政治上の支配權が漸次衰退するにつれて美術工業の衰微も亦甚しく國民生活の奥底から流れ出た美術工業の誕生をみることが出來なかつたのでこの衰退を挽回するために一八九七年 Arthur von Scola によつて Oesterreichisches Museum の改造行はれ Myrbach によつて附屬工藝學校の改革が行はれ、尙新傾向の中心機關として Kunst und Kuusthandwerk を出版し Wiener Werkstatt を創立したのである。かく墺太利は長い歷史を持つてゐる美術工業の保護奬勵に努力したのであるが獨墺の美術工業はすでに其の位地を轉換して墺太利に於て再び昔日の美術工業の隆盛を見ることが出來ないのである。

最近獨墺に於ける表現主義の勃興は美術工業にも非常な影響を及ぼして、客觀より主觀へ、自我の內面的活動の表現へと突き進んで終に一つの結晶を作りだしたのである。

（表現主義に關しては近來盛んに紹介されてゐるので記述するのを省略する。建築と社會第五輯第參號に此の根本思想についての簡單な記載がある）

Wien の Wiener Werkstatte に於ける Dagobert Peche は此の主義に立脚した建築裝飾家である。其の考案になる壁紙にも優秀なものが多く發表されてゐる。

尙 Wien には Prof. Dr. Oskor Strad, Vally Wieselthier, Hugo Gorge, Dr. Paul Szenkovits 等あり簡潔な力強い表現による多くの作品は Wien の家具裝飾界に重要な位地を占めてゐる。我々は最近の墺太利の美術工業を考へる時は Josef Hoffman の功績を忘却することが出來ない。Wiener Werkstatte が大戰に於ける危期を脫却して今日ある所以も尙向後新しい存在を續けることが出來るのも皆其の人の努力によつて强固な基礎を作り上げたからである。

獨逸に於ては Frity August Breuhaus が表現派の建築家として有名である。その設計になる Koln の自宅は最も赤裸々に個性と人格とを表現したものであるとされてゐる。August Breuhaus と共に Berlin の Prof. Bruno Paul は表現派の傾向顯著な建築家でその多才は東洋趣味の多分に加味されてゐる壁紙圖案に於ても充分認め得るのである。尙 Berlin の Otto Hitzberger, Karl Bertsch, Lucian Bernhard Darmstadt の Emannel Josef Margold は表現派の精神に立脚せる著名な建築裝飾家である。

其の他硝子工藝では Steinschonan の Gebruder Loreny, Munchen の Weny-Victor, Ludwing Gies, Wien の Zulius Zimpel 等あり Hamburg の Paul Helms, Maria Brinckmann, Munchen の Lilli Vetter は織物及刺繡にその個性を忌憚なく發揮してゐるのである。裝幀回案家として Hamburg の Frany Weisse は最も此の派の色彩鮮明であり亦屢々優秀なものを發表してゐる。

Berlin の Cathrin Schollmeyer, Adolf Behrmann Hanau Carl Berthold 等は彫金に於ける新人として名高く、陶器界に於ては Hans Thoma, Willelm link, Paul Dresler 等あり獨逸墺太利に於ける美術工業は表現主義の根本思想によつて新方向に進展してゐるのである。今我々はそれの表現形式によつてなされた成形の優劣如何を論斷する前に此の根本思想に立脚した獨墺の美術工業界の光輝ある前途を祝福したいのである。



住宅より觀たる都市

玄黄子

住宅と都市との關係

住宅が最も密接の關係を有する都市生活の各種の要因は、次の如く分類される。

雇傭の場所
休養の便宜
食料品供給及び其他の要件

仔細に觀察すれば、住宅に對する是等の便宜如何は單に家賃の高下を定めるばかりでなく、又人口の分配及び或程度まで、住宅に對する家族數から見た住宅の種類と建築物の高さとを決定するものであることが解る。

▲雇傭の場所　住宅から雇傭の場所までの距離は交通費(乘車賃)、往復時間及び往復電車又は汽車中の不愉快なる事情に關係する、而して此途中の不愉快は交通機關の正確さ、速力、運轉度數住宅からの距離等に關するものである。

住宅と雇傭場所との關係を明かにするには左の事項を調査しなければならない。

一、家族中の各稼ぎ人の仕事の場所に至る往復

運賃如何。

二、住宅及雇傭の場所から公衆交通機關に至るまでの距離。

三、往復に要する時間及び利用する交進機關の正確さ、速力並に運轉度數

四、各人の時間の幾何の割合を往復に費して居るか及び勞働時間。

五、家賃と比較して、毎一週間全家族に對する交通費の總額如何。

前記の疑問に答ふる報道は密集の理由を決定する一助となり、又現時の交通の分配と雇傭中心の分配とを如何に調整すべきかを示すであらう。電車賃、汽車賃、時間表等は地方の必要に應じて容易く調整することが出來る、而して其れに依つて往復の時間を短縮し、費用を減じ、又交通が雇傭娯樂、食料供給の中心との關係に於て人口の分布を一層合理的たらしむる助となる樣にすることが出來るのである。

▲休養の便宜　自治體が供給し得る又は供給しなければならない各種の休養設備を評論することは本書の範圍内では不可能である。斯の如き議論に付いては一九一八年十一月アメリカン、ジャーナル、オヴ、レシオロジー(米國社會學雜誌)に發表した『保存要因としての組織的休養』と題する予の論文を參照せられたい。吾人は唯此處に住宅と休養の便宜との關係に關して確めなければならない次の根本條件を示さんと欲するのみである。

近年大小各都市に於て空地、遊步場、活動寫眞舘等の必要なることを認むるに至つた。大都會に於ては殆ど何れの家も其最寄に是等の便宜を持つているが、而も猶ほ多くの都市に於て、教育文化に對する特殊の便宜は密集區域に於てのみ得られるので、其の利益を享けんとする者は皆遠距離を行かなければならない。故に住宅視察の際、直ちに得られる便宜の種類と斯の如き休養の便宜が實際如何に使用されて居るかを確め、又人民の最大多數が容易に到り得る樣に如何なる程度まで之を分配し得るかを指示することは最も重要である

又供給されて居る便宜の多くは人民の希望に添はないものがあるで或は少くとも地方の要求と調

和しない程人民の直接の需要又は平素の嗜好から遠いものがある。

此事情を知ることは正に調査者の經驗と手練と人民に對する一般的理解と其の國民性とに俟たなければならない。都市の休養設備の視察が若し出來れば斯の如き研究の基礎となるであらう。適當にして十分なる休養設備の欠乏が人口の適當なる分布を妨げるのは、貧弱なる交通組織が住宅の分布を不良ならしむるのと全く同程度で、是れは殊に大都市の狀態を熟知する者の悉く認むる所である。

▲食料供給及び其他の必要　蜜集の最も大なる所に於て食料品の供給が豐富であり、變化に富み、又安價であることは能く知られた事實である。公設市場、販賣者間の一般的競爭並に敗壞の虞れなく短時間内に多量の食料品を分配し得ることは蜜集區域に於ける價格の低廉を維持する重要なる要因となつて居る。此事情は密集區域の家賃の高價なるに拘はず、賃金所得者の家族がもつと人家の少い地所へ移轉しやうとしない一つの理由と考へられる、何となれば然ういふ場所は公設市場又は市場區域の中心へ行くことが出來ない限りは生活費が高いからである。

視察者は其調査した各區域に於ける食料其他の商品の市價の相違、公設市場及び主なる食料品分配中心に於ける標準價額を考慮しなければならない。是に依つて都市に於ける市場分配の問題に付いて大に得る所あるべく、又少くとも生活費の點から見た蜜集の原因を能く了解し得るであらう。

住宅費

本章の前段に於て吾人は個人と住宅との關係及び住宅と都市との關係を取扱つたが、今茲には住宅費と家族收入との關係を論じ、又購入價格から見た費用と家賃率から見たる費用とを考へやう。

住宅費に關する條件の研究は次の三つの方面に區別される。

購入費及び投資の安全

維持費（祖稅及び特殊の賦課）

財源及び金利

以上は單純なる要因で、住宅所有の問題に親む者は誰しも認め又は考へることであるが、實際の方法に關して多少詳細に論ずることは無用ではない

▲購入費　住宅に對する元本投資は恐らく住宅の取得維持の經路に於て最も重要なる又最も困難なる一歩である。此關係に於て視察上明かにすべき事項は左の如し。

一、室數に應じ又地域の關係に於て住宅各種の平均原價如何。

二、住宅の價額が住宅不足、住宅敷地の不足又は人口の劇增に因る異常の需要者は異常なる蜜集の影響を受けているか。

三、賣買に依る財産の移轉は人口の割合に頻繁であるか、又如何なる種類の住宅が最も容易に最も高價に賣れるか。

四、住宅の建築及び賣買は少數の不動産取扱者の手に委ねられて居るか又は其賣買は相當競爭がある樣に能く分配されて居るか。

五、市場に出る賣家は賃金取得者が購入使用し得る種類のものか、又は少額收入者に對して不適當なる種類か。

六、視察中考慮したる特定の區域に於ける住宅所有の割合と比較し、市内住宅所有者の割合如何。

七、家主が其の全部又は一部に居住せる單獨家屋、二家族家屋及び共同家屋の割合如何。

八、特定區域に於ける財産賣價の低下せる原因如何——例へば移民の侵入、財産價値を害する工業の設立、大多數の勞働者を使用せる有力なる産業の市外への撤退、新住宅區の開拓雇備の機會多く賃金高率なる等の爲め他の都市へ勞働者の移住せること等。

▲維持費　購入の手續が了れば直に維持費を支出しなければならない。左の事項は維持費に關して緊要なるものである。

一、不動産稅の稅率及び其賦課決定の根據如何

二、住宅に對して何等かの免稅があるか、若しあれば其根據如何

三、抵當權を設定した住宅で、抵當權者の支拂

ふ抵當權稅の外に、尙ほ財產の全評價格に依つて課稅されて居るものがあるか

四、五年乃至十年內の特別賦課に對する所有者の負擔總額幾何、又是等の賦課金は一時に又は或期間內に分割して支拂つたものであるか

是等賦課金と財產價格との關係如何

五、塵芥、灰其他の取棄に付いて市は如何なる仕事をして居るか

六、最近五年間所有者は法律の要求する所に從つて如何なる改良を爲したか、又其の費用の總額幾何

▲財源と金利　住宅資金の流動性と金利とは住宅所有を助け又は之を助くる條件の一部として考慮しなければならない。此關係に於ける調査の方面左の如し

一、市內住宅所有者總數と比較した區域內の住民が現金を以て購入したる住宅の割合如何

二、賃金所得者に住宅購入資金を貸付けた機關の種類——營業的、慈善的又は自治團體の機關等

三、住宅購入の爲めに貯蓄の便宜を與ふる建築貸金組合の如き協同組織があるか

四、最終買受人に對する住宅價額と投機又は職業的建築家に對する土地及び建築物の實價との差違如何

五、貸主に於て貸付を承諾するに當り財產上に負擔せしむる通常の條件如何

六、通常の利率如何、又其の利率は法律を以て定めてあるか

七、家屋所有者の手に入る各種財源からの借入金に依つて購入した住宅が幾何あるか、又斯の如き財產を所有者で賣却する通常の原因は何であるか

八、抵當流れになるものが屢々あるが、又其等の抵當流れは通常如何いふ事情に由つて起るか

▲家賃　大多數の都市に於いて其の住民の七割五分乃至八割五分は借家に住居する者であるから家賃率の問題は住宅の價格よりも猶ほ一層重要である。次に揭ぐる事項は家賃率と人民の需要

及び收入との關係に關して若干の說明を與へるであらう。

一、室數に應じ、アパートメント又は住宅の平均家賃率幾何

二、一戶建、二戶建及び共同住宅に於ける右家賃率の相違如何

三、主なる稼人の收入の幾割を家賃に支出し居るか

四、主なる稼人の收入に對する家賃の割合と一家族の人員との間に何等かの關係があるか

五、室數に應じ、家族の全收入と家賃との割合如何

六、間借人の支拂ふ間代で家賃の幾割かを拂つて居るか

七、家賃の足しにする爲めに間借人を置いて居る大小の家族があるか、又其割合如何

八、密集區域と比較的人口の粗い區域との間の家賃の關係如何、又是等の家賃が一人當りの室數に依つて異る狀態如何

九、各種の區域に於て住宅が空屋になつていた爲めに生じた一箇年損失總額如何、又空屋と家賃率との間に何等かの關係があるか

十、如何いふ種類の住宅が多く空屋になるか——大きさ、室數、衛生狀態、階數、其他を考慮すること

住宅視察の調査事項たる種々の問題を說くに當つて注意すべきことは、各都市それ〴〵に特質があつて、其れが視察の進行中に現はれて來ることである。併し本章に揭げた事項の多くが、建設的改良計畫の基礎たる住宅狀態の視察から省いて差支へないと思つてはならない。

都市再建と視察

戰爭の廢墟の上には新しい文明が築かれねばならない。古い記念物的の建築が密集と醜汚の上に影を投げて居る所には、新しい都市が起らなければならない。獨兵の炬火に燒かれた灰を上に、新しい都市生活の概念は生まるゝであらう。而して日光と、空氣と、田園と、親しい創造的の都市生

活が人民に返さるゝであらう。さて如何して血の滲んだ石瓦を取除けて、此仕事の成就に向つて途を拓くべきかは、今や世界の大問題である。それは世界に工業者、建築家、都市計畫者、社會學者達の有らゆる熱心と、巧妙と熟練と、構想とを要する問題である。

併しながら人爲的にして殘忍なる戰爭の破壞の外に、猶洪水、地震、旋風、火災、又は火山の噴火までが、この數十年間に幾度か戰爭の結果と同じ樣な都市再建の問題を惹起した。斯の如き都市再建問題の解決は、都市建設の科學と技術とに於て最近の進歩に一致しなければならない。而して吾人は佛蘭西や白耳義に於ける都市再建の事業が完成した曉にこれが應用されて居るのを見出したいと思ふ。

再建事業が實行計畫に先つて視察を要することは明がである。其視察が如何なる形でなければならないかといふことは限ある紙面を以て詳述することは難しい。併しこゝに、着手すべき調査の内容よりも寧ろ方向を示す爲めに概說し得る若干の要素がある。其要素を次に揭げる。

一、回　顧
　都市發達の歷史
　地方の美的及び形而上の價値
　都市發達の可能要因——人民、職業其他
二、土地要因
　地形學、地質學、山岳誌、水形學、風土學等
三、豫　定
　自治體の形式、工業、商業、住居の樣式其他
四、時間的要素
五、價値及び費用

▲回　顧　何れの都市もそれ〴〵其歷史的背景を有つているが、それは單に地理的の位置に關係があるばかりでなく、又質と大きさとに於ける都市の發展を促した社會的、政治的、經濟的現象の總てと密接に關聯して居るのである。如何なる程度まで地理的の位置が歷史を限定したか、又或は歷史が地理的條件の利益を受けたか、それは常に決定し得るものではない。併し、兎に角都市構成と都市機能の形態が地理的要因と密接の關係を有

つて居ることは確かである。街路の方向、建築法交通路、公共建築物の位置、商工業等は皆其の基礎を地理的要因に置いて居る。此關係を如何いふ風に都市の利益に用ひたかといふことを各都市の歷史を深く研究して明かにしなければならない、そして改良意見は歷史と地理とに適合しなければならないのである。

住宅供給と都市計畫とは、根本的に有効ならしむる爲めには其仕事を科學的根據に基かしめねばならないが、併し傳統と習慣の勢力も看過することは出來ない。其れは集積された經驗、定められた標準を現はすのみでなく、又各人の鄉土と關聯する重要なる精神的價値を現はすものである。例へば軒先道路を前栽に使用すにことや、人道にレストランを設くる習慣(巴里の如き)といふ樣な比較的瑣細な人民の常習は、鄉土氣分の欠く可からざる一部として尊重しなければならないし、必要上之を廢止せんとする場合には其前に最大の注意を以て考慮しなければならない。

實用上から見て、少くとも經濟的に人民の最善の利益に一致しないと思はれる樣な或種の美的及び情調的要素は、其の存在が人民の能力と安全とに對する實際の脅威とならない限りは、之を神聖なるものとして置かなければならない。狹い通りや、位置の廣い記念碑や、最初建てた目的に使用されていない公共建築物は、同じ必要に應ずる他の方法が無い場合にのみ之を移轉し又は取毀つべきものである。此仕事は狀態其物の研究を必要とするのみでなく、又其等の狀態に關係する地方事情の完全なる智識と、是等の狀態が作つた傳統と人民が之に對して認めて居る。美的及び精神的價値の完全なる理解を必要とする。視察の方法に堪能なる人は、必しも此仕事に必要なる老古的智識を有つて居るものではないが、併し其智識は同時でも都市の古文書から又全體としての人民の意見から得られたのである。

都市に於ける特殊なる商工業の發達、特殊の職業に熟練した職人階級の偶然の移住、敎育的又は文化的設立物の存在、並に過去の生長と地方の特質との關係は、視察の際研究すべき問題で、之に

依つて人民各の殊の要求が如何なる程度まで都市計畫と住宅政策の一般的基礎に適合するかを確めなければならない。是は一般的の智識に基かねばならない。而して都市の住宅計畫は、假令偶然でも社會的、經濟的に人民生活の一部を成している特殊の條件に從はなければならない。

▲土地要因　自然環境の條件全體が都市を形作くる上の土地的勢力を包括するものと言ふ事が出來る。吾人は既に史的背景としての地理的要因を說いたが、一步を進めて、吾人が土地條件の社會的、經濟的價値を了解する時に、吾人は少くとも住宅が都市との關係に於て關する限り、地形、地質、山岳、水形、氣候其他一切の土地的利益を利用し、又出來るだけ小額の費用を以て其の美的價値を損ふことなく　是等の要因が表す困難に打勝つ樣に設計を作り得るのである。

多くの都市設計か失敗したのは土地的條件と其人民全體との關係に付いて餘りに狹い範圍の調査を基とした爲めである。

▲豫　定　都市の將來は大部分位置と住民の特質と社會組織、政治狀態等に依つて豫定さるゝものであるが、吾人は益々、都市生活の主なる要素を集めて、地方の要求に餘り適當しない他の機能よりも先づ商工業の一定の權能を發達せしめる樣に、其の設計を作り得る社會工學の形式に或る價値を認むる樣になつた。地方の要求に適しない商工業の種類は、有效なる都市計畫に依つて其の發達を調節しなければ都市の不利益を應じ易い。都市計畫の此種の指導的勢力は是迄餘りに注意されなかつたが、併し是は正當なる條件の下に進め得べきものではあるが、此發達の基礎は視察に依つて明らかにした事實の完全なる智識中に見出されなければならない。

此方面の調査は一見住宅視察から全く懸離れて居る樣に見へるが、併し再建事業に於ける住宅の再建築は、都市の構成分子として又產業及び社會組織の一般として、是等の住宅に於ける人民の活動と密接の關係を保たなければならないのである

▲時間的要素　總ての再建事業に於て、其の仕事に献げなければならない時間は本質的に重要な

ものである、適當なる再建の機會は屢々、仕事の緩急の賢明なる撰擇に依つて定まる現在の便宜を其儘使用する事や、一時的建築物の建設、緊急欠くべからざる商業的活動の復活に對する必要、十分なる勞力と材料を得ることの問題、健康と安全とを保護する最小限の規定、是等は總て、一時的建設に充て得る時間の量と永久的の計畫と建設とが始まらなければならない時期とに密接の關係を有するものである。時間問題の他の一面は、都市生活の本質として其の重要の程度に應ずる改良の撰擇に見出されなければならない。之を考慮するに當つて多くの意見の相違があるであらうが、併し視察は常に人民の最大多數の利益を念頭に置くことを努めなければならない。而して又出來るだけ多く將來の改良に於ける利益を生かして置かなければならない。

人民が發表し又視察に依つて了解した彼等の習慣とはその面當りの必要とを注意して研究すること、それが再建の各方面に關する一切の時間の問題を解決する基礎とならなければならない。

▲價値と費用　再建計畫は、災害前及び災害中に現存した價値と、舊型に依るか又は新しい設計に依るか、何れにしても再建の爲めに得らるべき可能價値との十分なる智識がなければ遂行し得らるゝものでない。尤も將來の價値は、可なり廣い誤謬の餘裕を見込んで概算し得るのみである。併し過去現在の智識が正確なほど、將來の價値に關する豫想も正確な譯であると。斯の如き價値の分配と、無用又は法外の費用を掛けないで各個の最終所有者に對して總ての價値を回復する可能性との視察は、斯の如き調査の根柢を形作らねばならない。財産の改良が實際に價値を增加する場合には投機を不可能ならしむる樣に斯かる價値の增加を取締り、又都市全體から見て出來るだけ公平に利益の分配を調節することに注意しなければならない。

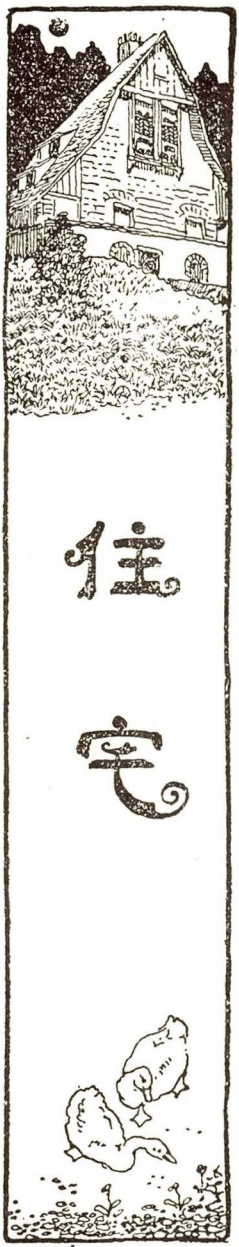
住宅視察と新都市

最近二十年間米國には多くの新しい都市が出來上つた。其或物は獨立の住居中心又は産業中心であるが、其の他は密集を緩和する目的によるか、又は生活條件・産業の發達、運輸關係等が隣接する末發展の土地への擴張を餘儀なくした爲めに、大中心の吐口として發達した衛生的都市である。

再建に關係ある諸種の條件は、新都市の發展に對して、恐らく一層積極的に關係がある譯である併しながら新都市の建設と再建との相違は、新都市の場合には、人的要因と其の性質とを決定する上に於て、住民は既に久しい前から定まつて居り其性質も習慣も要求も能く知られて居る再建の場合よりは遙かに多くの構想と先見とを必要とすることである。

新都市の目的、開發すべき土地の使用、其れに對して用意をしなければならない商業工業の種類土地價格の伸縮、其れに對して新都市が社會的、經濟的又は政治的の關係を有しなければならない人口中心の關係、豫定の生長率等は特別の研究を必要とする。併し都市の最も肝要なる部分として住民に付いては出來る限り知らなければならない國籍、人種家族の平均人員、合衆國内在住の年數(外國人を居住せしむる場合)、室殊に臺所や居室の慣習的使用法、大凡の賃金と一家收入、職業等——一口に言へば住宅計畫に影響する能ふ限りの有ゆる要因を確め、それが出來るだけ十分なる限度に又借家人の最善の利益の爲めに利用される樣にしなければならない。固より是等の要因は常に知り得らるゝものではないが、併し其の一般的概念を構成することは出來る。殊に工業村の場合は、其の工業の性質が能く知れて居つて、勞働者の撰擇と監督とは主として工業の性質と使用者とに依つて決せらるゝのであるから、最も解り易いのである。

都市計畫者は、社會視察を以て新都市の人的要素を決定するの重要なる意義を實現することを助けつゝある。而して又其の進行中にこの人的要素を嚴重に考量しつゝあるのである。都市計畫の全體は住宅に對する其關係如何に係る、而して住宅視察は常に有効なる都市計畫の基礎となるであらう



住宅改造博覽會を覽て

（本誌口繪參照）

本編に挿入せる住宅の外觀及內部の寫眞は出品住宅貳拾五戸の孰もがその特長と出色を有せる Construction と design 中その幾部を彷彿せしむ爲に挿入せるものにして、代表的の意味に於て掲載せるにあらず。

江村郊邨

◇秋は冴へた、肌心地は佳い、野にも山にも巷の隅にも、うす紫の靜澄な光を投げて、何んといふ暢びやかなことであらう。——行樂の一日、市塵を避くる好適な場所、それは、華城郊外一步を離れた所在に存するであらう。されど、今、華外酣盛の秋を飾るは、何んと謂つても、北攝「櫻ケ丘」に、大正の桃源鄕が、夢のように浮き出てゐる『住宅改造博覽會』に如くはない。

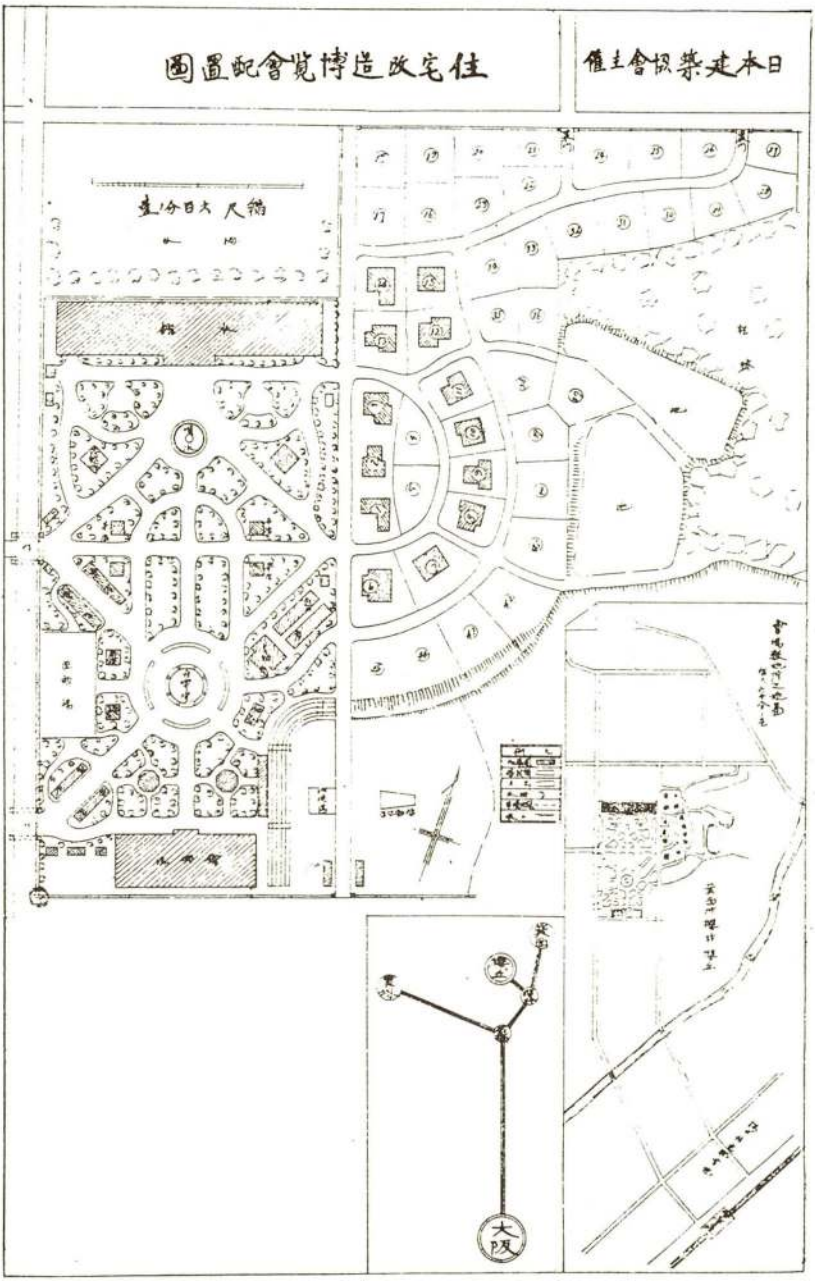
◇「住宅改造」！、それは、少とも現代の思想を一貫してゐる「改造」又は「創造」の先鞭である。其處には、豪奢階級も、特權者もない、凡ての人を通ずる現代思想の一發露である。左なり、「住」は「人生」であり、「住」の改造は『人生』のそれである——住宅博一日の行樂は、確に、斯の實利と雄大

な美感に陶酔を覺へずには措かない。秋は增々冴へて來た、時は最も佳い、往け！、住宅博一日の自適は、當に、諸君の、ヨリ文化的生活に途を鑿く一歩である！。

◇秋を追ふて、阪急「梅田驛」に蝟集する人の繁みは、往く秋と共に、日一日と、怖ろしい程な殷賑さを示してゐる。往く者、語り合ふ者の多くが住宅博の事共とは、何んたる心強い。そして旺な事であらう。記者は、或日の一日を、住宅博行きの群衆に混りて、斯の人々の輝がしい博覽會見物談に耳を傾けつゝ、阪急「櫻井」停留場に吐き出された。

◇打ち見遣れば、停車場のプラットには、紅葉を撒して目も醒るような派手やかなる雪洞を、紅白段だら塗りの枠に懸け連ねて、其處等邊りの美々しき裝飾は、奈何にも秋の輕明な郊外氣分と照り榮へつゝ、此處にて先づ行客の博覽會氣分を一段と唆らずには措かない。場外一歩、往く手遙か、北攝の山脈が濃綠りに縦走して、西になだらな丘陵の連亘せる邊り、乳白色せるアーチ形な二基の塔が、克明に秋の清澄を衝いて、綠線上、中空に浮き出たるは、博覽會場の本館であつて、こよなき途しるべを成してゐる。我等は先づ、停車場の直前に在る「松澤ホーサン石鹸」の無料休憩所に姑し憩いて、その巨大な廣告塔に興を遣るのも面白い。此處より、兩側に立ち列ぶ廣告枠の博覽會道を辿り心長閑な秋の陽を浴びつゝ約二丁許り往かば此處にも阪急の心盡しな派手やかに裝飾せるアーチを潜りて右に折れ、いさゝ小川のせゝらぎを聽きつゝそれに添ふて尙ほも博覽會道を辿れば、赤幹綠葉の亭々たる松樹の粗立せる下、欄柱に、其處等小川の幾歳月なむせびを駐きたらむかと思はるる小石塊を積み重ねて、黑色の橋脚、赭色の橋桁、青綠色の橋欄、『田村橋』なる斯の雅趣と色彩美に富める一小橋にすら、此處等邊りより、住宅博の實際を忘れない藝術的氣分を一段と偲ばしむる。

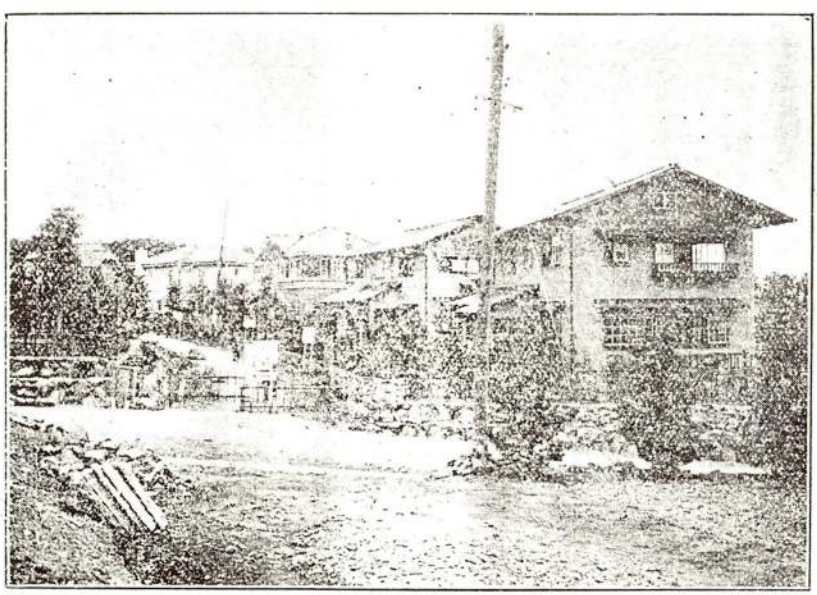
◇此の小橋を渡れば、十數歩にして、穹窿形せる奈何にも構圖の鮮し味に非常な感觸を惹く『正門』は、流石に建築博だ、と少なからず觀者の心を唆るものがある。此處より、中途「グラブ」の廣告塔


住宅改造博覧會配置圖
日本建築協會主催
大阪

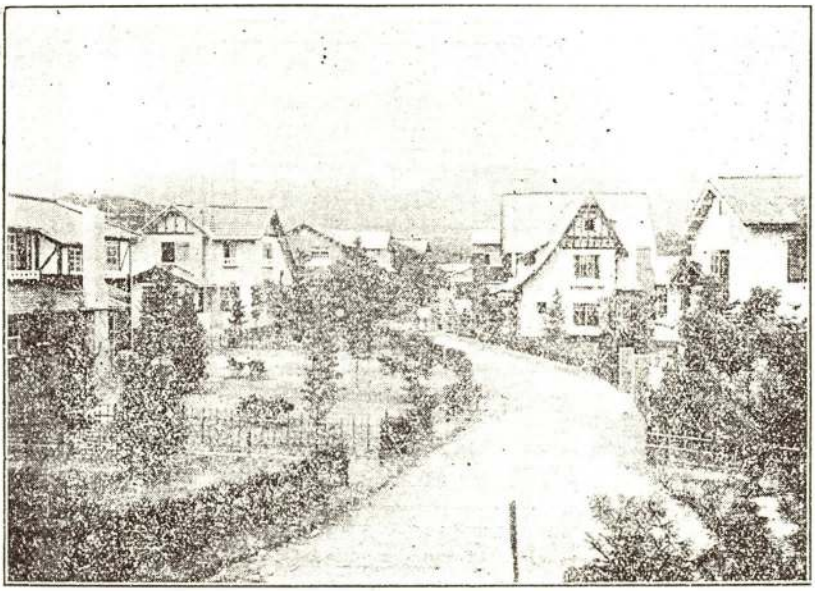
を潜りつゝ、緩やかな斜道を尙ほ十數歩にして、此處に博覽會場の本廓が、廣袤實に壹萬五千坪といふ一大展開を成してゐる。

◇先づ大觀すれば、道路を距つて、東部約五千坪を出品住宅街に、その西部約壹萬坪を本館と各種の建物に充てゝゐる。之を建物の棟數にすると、出品實物住宅貳拾五戸、住宅博事務所一戸、出品天幕村數戸にして約八百坪、本館約五百坪、無料休憩所、音樂堂、活動寫眞、その他各種の建物を合して、約參百坪、それが、種々な構造と色取りどりな光彩と風致を以て、濃綠の丘陵上、紺青の秋晴れの下、壹萬坪といふ平原に散開してゐるのであるから、眼を奪ふ壯美の感と共に、奈何にもその雄大さを偲ばずにはゐられない。觀者の參考迄に、先づ以てその平面圖を此處に挿入しよう。

◇記者は、先づ、出品住宅街を訪れてから、徐々々觀覽することゝしよう。見渡した處、住宅街は四つの衢區を成してゐる。出品實物街には、差し詰め『文化村』と來る處を、元來、名に囚はれない住宅博の事とて何の名稱も無い。仍で、記者は、



出品實物住宅A街（假稱）

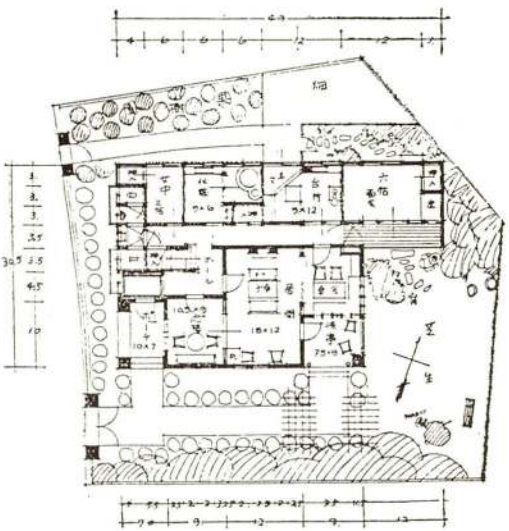


出品實物住宅B街（假稱）

その一戸々々を訪れる巡路として、最も手近きな衢區から、第一街をA街　第二街をB街、第三街をC街、終りの第四街をD街と假りに名けよう。而して、A街は、出品住宅地區の最南端に在つて、それが、西より東北に半周を畫き、B街とC街は共にA街に稍々並行して、A街を外緣とすれば、C街は第一の內緣B街は第二の內緣に當り、D街は、件の三半圓線の終點と對角的に、東面に殆むど直線を成せる一衢區である。——やれ〳〵！、幾何學でもやるような書きツ振りで、書く記者さへ肩が凝つた。

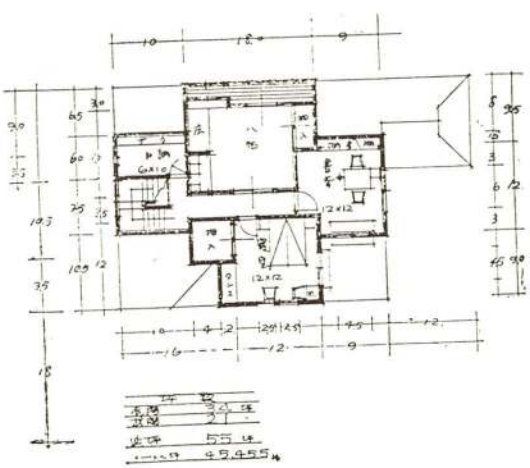
◇一つ〳〵が、新鮮味の奈何にも膏の乘つてゐるような氣分を與へる許りでなく、全街貳拾五戸の一戸々々が、その Construction に於ても Design に於ても、克明に特異さを示して、それが、環境の自然と、——然り滲み透つた秋の雰圍氣の裡に山稜丘角の展開せる自然に、その色彩美と徽象美を、膏のにじみ出るように湧然と流してゐるのだから、歩みの一たび斯境に入らば、大概な人は淡い恍惚感に、一種のロマンティックな思ひに打た

れない者はあるまい。記者は、斯の住宅街を逍遥するだけでも、飽かぬ藝術味に陶酔するような氣持がする。



例一の取間下階 FIRST FLOOR PLAN

◇悉皆事は是れ位にして、記者は、その一つ〳〵を訪れよう。——但し、斷つて置くが、その凡ての點に亘つて、批判を書くことは、記者の差し當つての柄ではない、許りでなく、到底紙幅の容さゝる處である。されば、ざツと案内記に止めて、縦に、その出品者の抱負と説明をお取次する事にしよう。

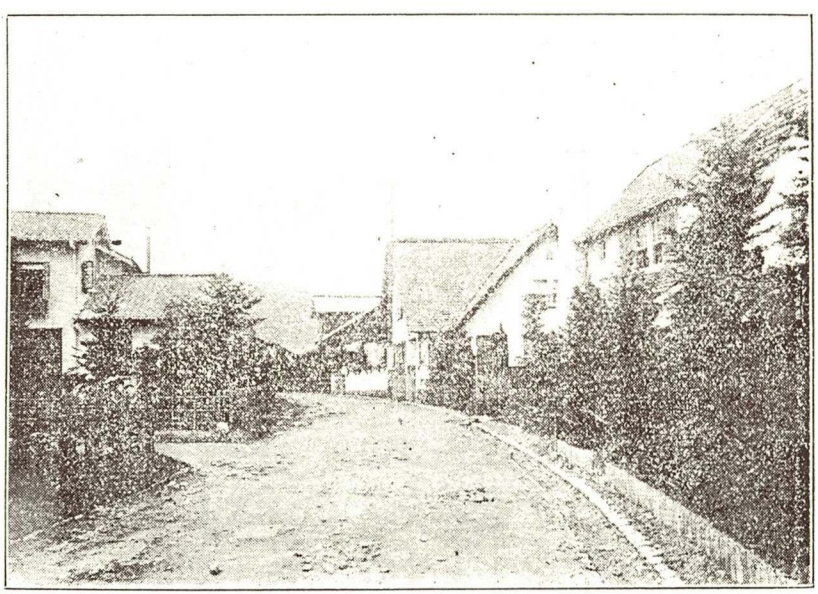


例一の取間上階 SECOND FLOOR PLAN

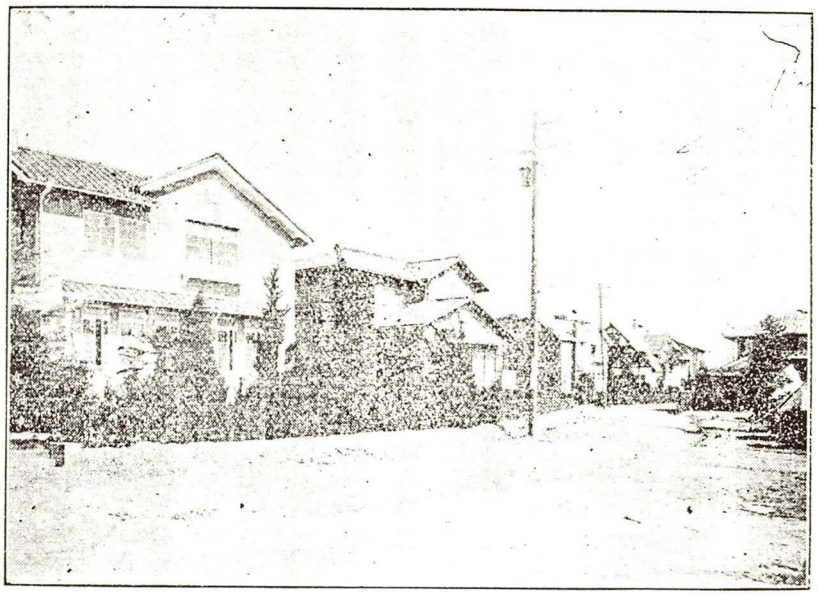
先づ、A街、**竹中工務社出品のA號**から觀ることにしよう。本編に挿入せる出品住宅A街の向つて最右端にあるのが是である。その寫眞に見ゆる容姿でも判るように、中心は、日本式家屋の多少

勝れてゐる箇所を成るべく保存して、そこに洋式の長所を配合した、といふ點に在らう、と察せられる。例へば、日本特有な濕氣と暑熱と、而して例の霖雨等に對する外界の條件を稽へて、深い軒と、窓に庇を附し、乃至は、窓の面積を努めて廣く取つた外、由來、住宅改善の焦點ともいふべき『最小の廣袤（スペース）を以て最大に用を足す』ともいふ關係から、例へば、戸障子の殆むど凡てを引き違ひに成して、開閉の爲に面積の延長を節約した如きは、その一例である。その他、寢室を直ちに寢臺を用ひ得られる設計豫想の下に、依然疊敷と成したるは、我住居生活の過渡期に處する設計として、餘議ない事である。その他、廊下の面積を廣く取つたのは、場合に依りてベランダー代りとなし得る豫想の下に成つたので、蓋し、思ひ附きであるその隣りのB號の方も大體同調異曲だ、と云つて可い。——次へ往かう。

◇隣りは**田村眞策氏**の出品である。見るから洋式で、出品者は之を『獨逸近世式』だと唱へてゐる。但し、疊敷と成した間の多いのは、同樣に、過渡



出品實物住宅C街（假稱）



出品實物住宅D街（假稱）

期のものとしては升うあるべきであらう。建坪階下二十六坪餘、階上十六坪に廣間、應接室、居間食堂、主婦室、女中室　化粧室、階下に老人室、子供部屋、客室、寢室等を相當な廣表を以て聯絡よく配置したのは、奈何にも引き締つた心地よさを偲ばしむる。

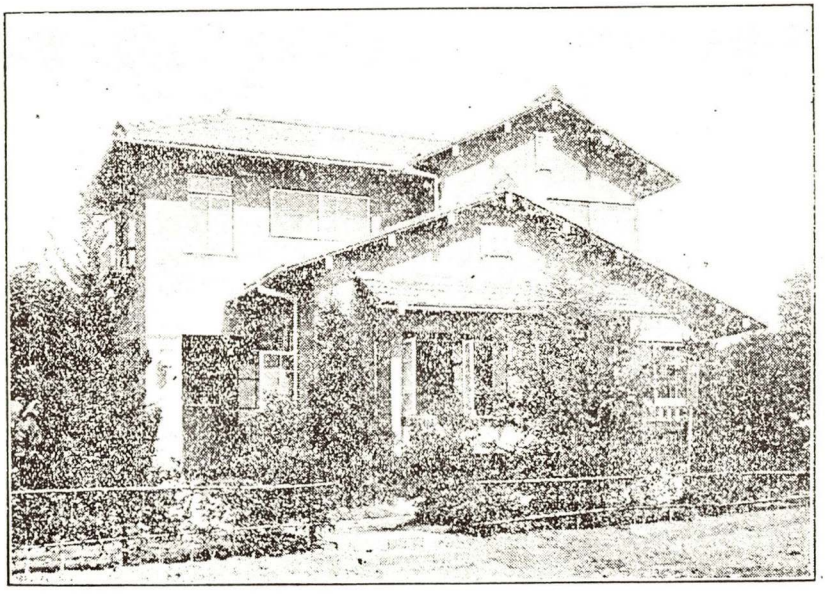
大林組出品住宅B號

◇設計の焦點は、所謂二重生活を醇化するといふに在る。隨つて、急進的主義よりも、日本在來の棄て難き美的趣味と、長所とする慣行を成るべく保存して、それとの融和合合を奈何にすべきか、といふ所謂實際主義に立脚して、斯の住宅に對する設計をなしたとの事である。——奈何にも、その苦心と、何處までも設計に忠實であつたといふ氣分が充分に觀取される。今、その一々を誌すことは到底紙幅の容さゞる處であるから、ほんの摘記に止むれば、先つ樣式は、純日本風にして、それに數寄屋式を抱和させたもの。各室も、要約し得る限り最小限に止めたる結果、成るべく兼用主

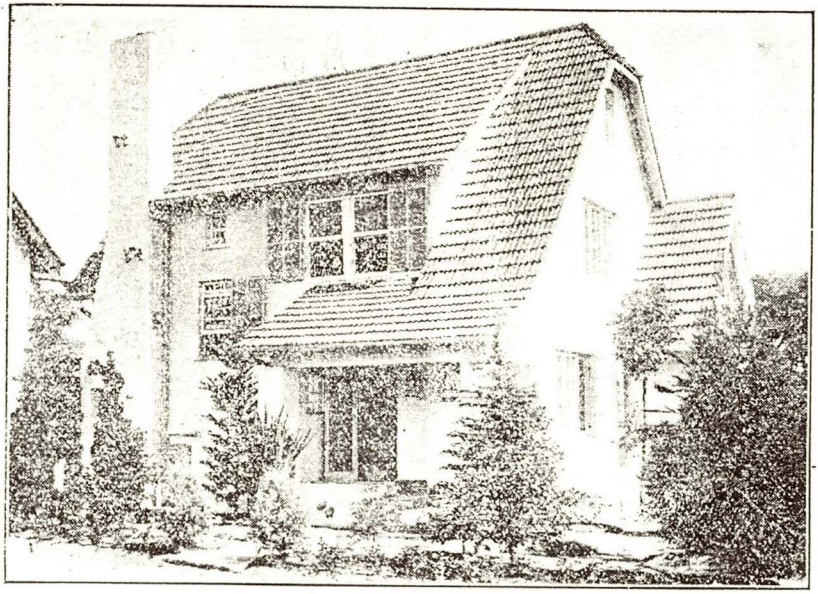
義を採りて、例へば書齋兼用客間、乃至は居間兼食堂、婦人居間兼作業室及小供居間兼寢室の如きは是である。斯る要約された中にも、細心の注意を拂はれてゐる一例は、壁體天井の紙張或は漆喰の下地に「タイガボート」を使用せしが如き、若くは、炊事部屋と風呂場の如き常に火災の危險ある箇所は、天井を石綿板張として、耐火裝置に兼ぬるに防鼠の用を爲せるが如き、殊に『子供室』に押入兼用のベツドを設けたる抔は思ひ附きである。その他、家具及裝飾、炊事場、煖房、照明、給水及排水、その他保健的裝置等室内に於ける諸設備の稱ふべき數々あるが、今は以上で擱く。

片岡事務所出品住宅甲號

◇樣式は、外部洋風にして、内部は、折衷式に據つたのである。階下は、配置されたる室の性質上主として洋式味に勝たしめ、階上は、その一半を寢室とし、その外子供室と讀書室を附して孰も日本風に、洗練味を充分に加へられてゐるのは、奈何にもすが〳〵しい氣持ちを偲ばせる。階下は、



日本風に洋式を加味したる出品住宅の一例



出品住宅洋風建築の一例

玄關を直きに客溜りの『廣間』で、その直前の撞を排すれば『書齋兼應接室』、その次が八疊程の『居間』それに接續して六疊の『食堂』、その次室が、中床を取つた三疊程の豫備室とでもいふべき一室を取つてある。之等の客室を廊下で距てゝ、炊事場、臺所、浴室、女中部屋で、廣間より直ちに、女中部屋に隣りたる階段から階上に通ずる。要するに、室そのものと、室の聯絡が非常に氣持よく而も簡明な聯絡線を畫いて、大層便利に出來てある。其他、各室の設備や裝置等稱ふべきものゝ多くを有つてゐる其の一々に就いて、今は此處に叙記することの餘裕なきを遺憾とする。

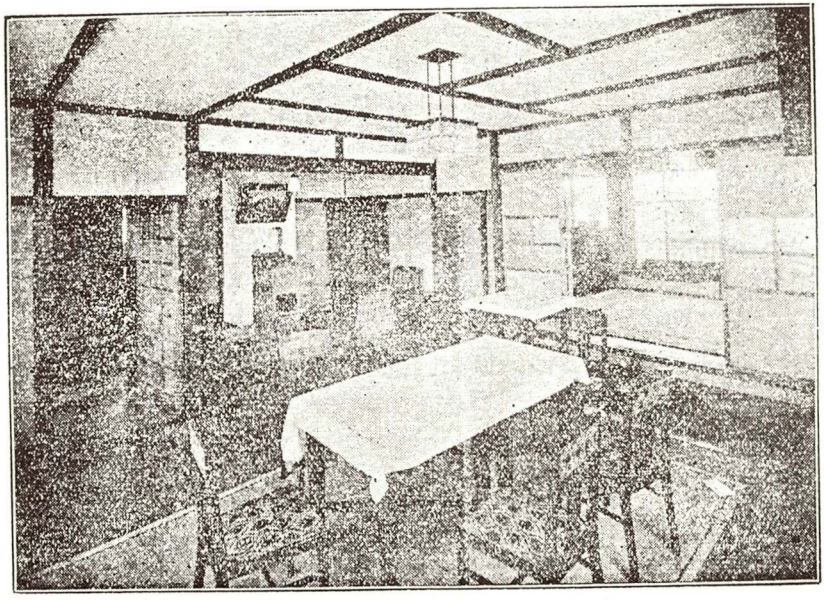
横川工務所出品住宅

◇なだらかなカーブを畫いた青色スタッコート塗セメントタイルを用ひた奈何にも印象的な外觀である。樣式は純洋式で、女中部室と化粧室を疊敷とせる外は、全部洋風である階下の居間兼客間に隣りて、食堂と、廣間の一部を應接室としたる、成るべく面積を要約された中に、奈何にもゆつた

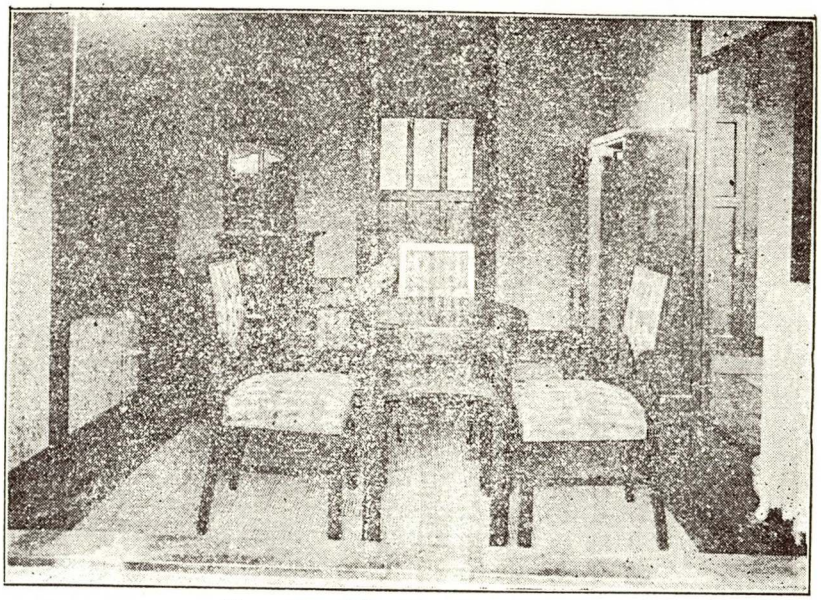
りとした氣持を與へてゐる。階上の寢室を廣く取つたベッドも、階下のテレスも、非常に新鮮味ないよい感じを與へた。

あめりか屋出品住宅

◇何分時間の容さないので——ではない紙幅の容さないので、ほんの見た儘、此處まで遣つて來た、そして、前途——いや紙幅を見れば大して餘裕もないようだから、相變らず五七行の不滿足なものになつてゐるのは、どうぞ宥して頂き度い。仍で、次は、あめりか屋であるが、是は、出品者の抱負にもある通り、『遺憾ながら現在の一般向住宅としては彼我の長所を並用するの外はない』といふ理想の下に成つたもので、奈何にも、その南方と北方を想像線によりて二分し、前者に洋式味を勝たしめ、後者に日本風を用ひてある。即ち、應接室、居間、食堂、ベランダーを東南に取りてそれに洋風の庭園を背景としたる、輕快な洋式味をほ偲ばしめる。



出品住宅〔居間〕の一例



出品住宅〔書齋〕の一例

鴻池組出品住宅

◇出品者は曰く、『斯の設計の第一の特色は居間中心主義を採れり』と。奈何にも居間を充分にゆつたりと取つて、それが月明や星月夜乃至は夏のそよぎに、藤椅子でも持ち出したらといふようなテレスに臨むで、光線の射入にも寛濶な氣分を持たしたのは、その特色が窺はれる。正面客溜りの『廣間』から右手には、『書齋兼應接室』を控へ、突き當りが直ちに『居間』と成つて、その左手に連續して、炊事場、脫衣室、浴室等に成つて居る。階下の凡ては、多少日本式を加味した洋風と成つてゐるが、階上は主もに寢室にして、日本座敷と成つてゐる。外觀は概して西洋建築に近い緣式を採つてある。

大阪住宅經營株式會社出品住宅

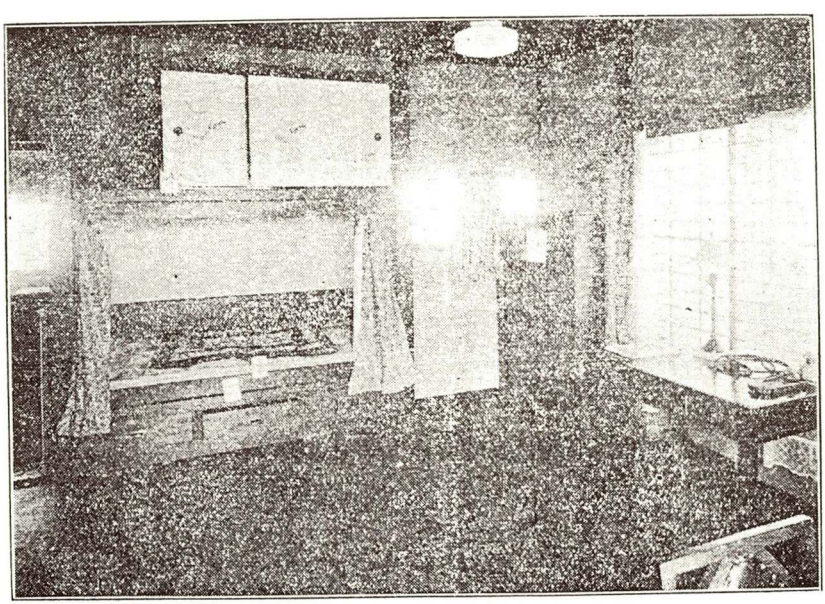
◇出品者は其設計の要旨を『二重生活の緩和と簡易生活の最小住宅たる標本』と云つてゐるが、奈何にも斯の氣分は充分に現れてゐる。斯ういふ住

宅の本然な傾向として、瀟洒な晩霞樓（バンカロー）式なのは爾かあるべきである。玄關より直ちに書齋と客室と應接室に兼用さるべき一室を、一等廣く取つて、その次が六疊程な居間で、直ちにベランダーに臨むでゐる、斯の簡素さは、奈何にも氣持がよい。

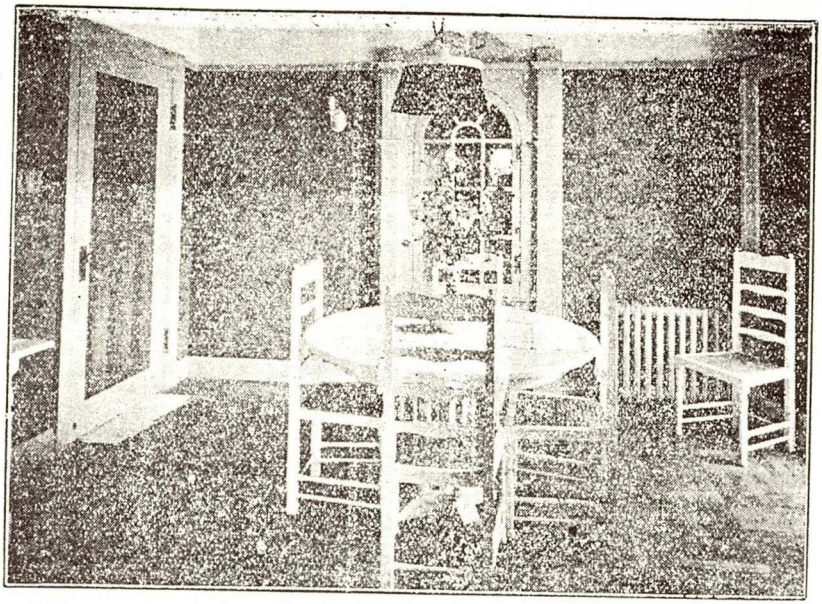
◇以上で、先づA街の一戸々々を訪れ畢つたのである。次はB街に往くことゝしよう。

眞水三橋建築事務所出品住宅

◇『所謂中流階級が其實生活に直ちに實行し得るもの、即ち住宅改造の機に先づ第一に着手さるべきものは、諸種の點よりして、その日常生活に要する最小限度のものたることを要し、建築費の節減を旨とするは勿論、樣式、構造、設備に於て、日本のものでも西洋のものでもなく創意されたもので、而も尙は其居住者を人格的にヨリ良く生す意味に於て、その處を失しない程度なものであらねばならぬ。』——是が斯の出品住宅設計に就いて出品者の抱負である。今一々斯の標準から觀た各室の配置及設備等を紹介する事は、紙幅の容さゝ



出品住宅「子供室」の一例



出品住宅［食堂］の一例

る處なるがゆえに、記者は、唯、奈何にも、斯の抱負そのものを、各室の配備又は各所の構造等に於て、親しく現實に教へられた感を充分に有つことが出來た。

大阪橋本組出品住宅

◇出品者のモットーに曰く『無駄のなき家』と。是は今回の出品住宅全般を通じての焦點であるが、斯の住宅に於て一層然るを見る。階下の廣間を除く外、主要なるは僅に三室に過ぎない。それが客室と成り書齋と成り應接室と成つて、その他に、茶の間と食堂、即ち、どれも是れも始終役立たれてゐる、といふ點に其のモットーが窺はれる。階上、子供寢室と子供書齋を比較的廣く取つてあるのは、種々な意味に於て嬉しい。

◇階段を上つた取り附きに一間を距つて、右が『老人室』左が『婦人室兼寢室』と成つてゐる。要するに、各室のプライバシーは能く保たれてある。

◇片岡建築事務所出品住宅の乙號と、大林組のB號は、此のB街に屬してゐるが、前記の甲號及A

號の紹介に止めて置く。

更らに、歩を轉じてC街を訪れる事としよう。

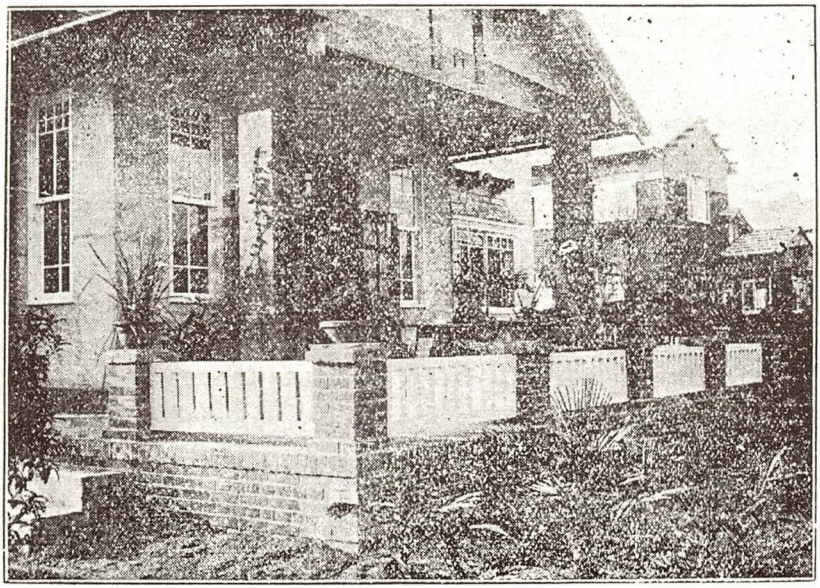
日本建築協會出品住宅

（第一號乃至第四號に至る四戸）

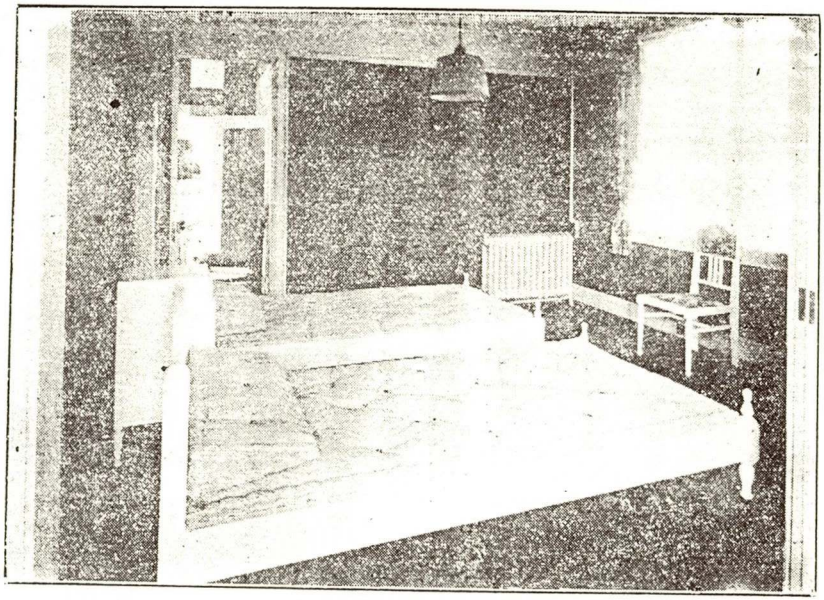
◇曾つては、今回の住宅博準備の一つとして、前後三回に亘り、懸賞にて募集せる各種の住宅設計圖案中當選せるものを基礎として、それに多少の改善を加へたる實行案なるものが、此の四戸と四戸D街の出品住宅である。今此處に一々紹介するの余裕を有たないから、その樣式だけを紹介すれば、ミッション式、コッテージ式、バンガロー式の三種に渉り、その孰れもの内部が、それ〳〵余程な洗練振りと新鮮味を充分に發揮して、流石に一種の規格的建築だ、と謂つても、強ち手前眛噌でない事を斷つて置く。

錢高組出品住宅

◇『文化生活を營まんとする都會人士家族的五人を標準として、比較的一般家族本位の住宅たらん



出品住宅［ベランダー］の一例



出品「住宅」「寝室」の一例

事を期し、生活様式は和洋兩様とし、經濟的なる家具を備へて日常生活の行動及整理の便を計れり』――奈何にもその苦心の跡を窺ひ得て嬉しい。終りにD街を見舞ふて、本館へ移ることとする。

葛野建築事務所出品住宅

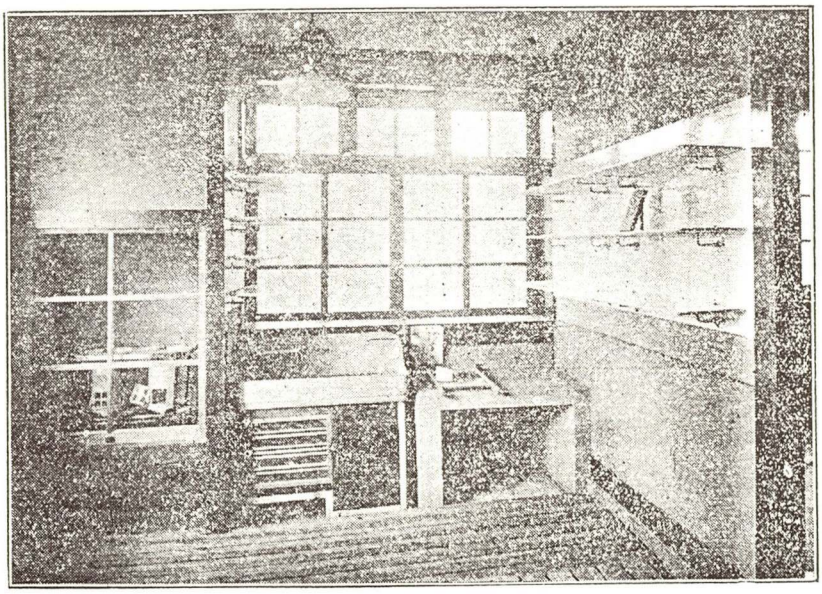
◇曰く、『資産の有る特殊な人に非むば不能である住宅改造は、私共の考へとは余程距離がある』。曰く『在來我國風住宅の様式構造を基礎とし、それへ、最も必要と考へられる部分に出來得る限り工費を要せざる方法にて洋式改造を加へたり』と。成る程、斯の住宅の特長とすべきもの一つは、全体として、プランニングが頗る齊格を成してゐる。即ち、多角形でなくして、凹凸の極めて少い處に先づ件の理想が現はれてゐる。吹き抜構造のポーチに一段とゆとりを見せて居室を最も弘く取つたのは、その装飾品や調度と共に、室を種々に活用し得られる、といふ經濟と簡便を顧慮したのである。居室南側の窓下に、一帖半許りな疊敷の床を設けあるは、國風建築を全然棄てない限り必要な

事である。居間に續いて、六疊敷許りの居間を設け、そこを、晝間は老人や婦人達の仕事場に利用し、夜間はそれが寢室となるのは、何處までも、前記設計の理想に忠實なりと云ふべきである。二階は、『應接室兼書齋』と『客室兼寢室』となつてゐるが、その前者と、玄關と居間は洋式となつてゐる。

◇之に隣れる日本建築協會出品住宅の第五號、第八號、第六號、第七號は省略する。

横田組出品住宅

◇内外とも洋風に出來て、内部を幾等か日本式にした建築である。ホールは「應接室」を兼ねて、純然たる洋式であり、家族室も同樣で、只「主婦室」だけは、家族室より一尺餘り床を上げて疊敷となつてゐる。而して、それが驅て家族の寢室を兼ぬる、といふ便利さを有つてゐる。二階は、主として十二帖の疊敷『寢室』と成つて居り、それが來客用に宛てられてある。

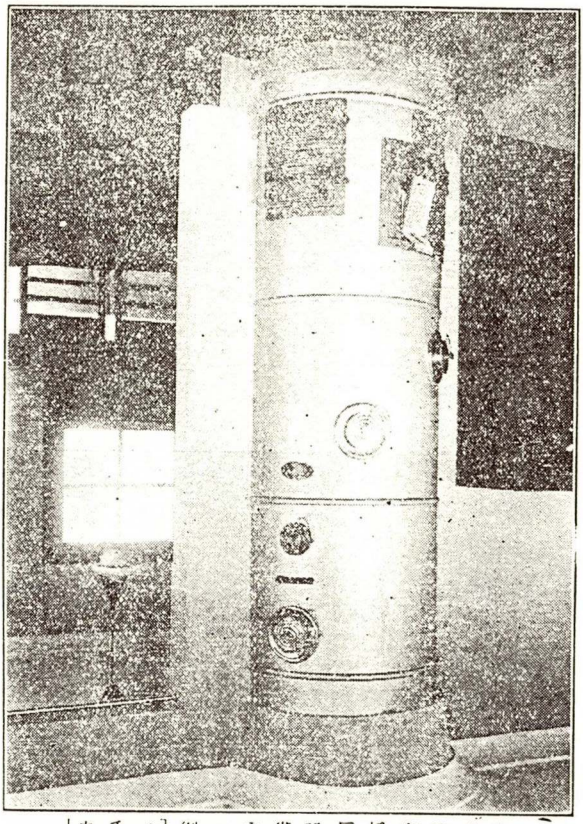


出品住宅「勝手元」の一例

清水組大阪支店出品住宅

大阪毎日新聞社出品『簡易テント村』

◇樣式を『和風を根本として之に歐米の長所を加味したる近世式』といつてゐる。階下『客室』と『居間』を隣り、客室の一隅を書齋に取り、客室はテレスに居間は植込みに臨むでゐる。而して居室の一部と二階の各室即ち六帖、四帖半、二帖就も疊敷と成つてゐる。全体が非常に簡明な氣持ちを與へてゐる。



出品住宅煖房設備の一例［ベチカ］

◇終りに、大毎の『テント村』を見舞ふた。今迄訪れ巡つた住宅の皆それ〳〵な文化的洗練さを有つてゐる』終りに、斯の『テント村』の簡素さと輕便さに、記者は少なからず興趣を惹いた。謂はゞ『移動家屋』若くは summer house として、恰當、文明的な凡ゆる設備の具はれる汽船に、輕快なランチを伴へるような氣持ちがした。

以上は、総に住宅街一戸〳〵に就いて、ほんの一部しか書いたのに過ぎないが、眞に斯の空前の設計物を味ふと思はゞ、親しく、一戸〳〵に幾十分かを費されたい、蓋し、自ら窃に首肯し得る處の何かの啓發を得るに相違ない。併せて、此處に附記し置く事は、以上の各戸を通じて、それ〳〵の煖房設備と排泄物の處理に、皆相當な苦心を拂はれた事である。細觀せば、その一戸々々が特異な方法を有つてはゐるが、概觀すれば、近來簡便な煖房器とされてゐる『アルコラーボイラー』『ラヂイオ式温水暖房』及電氣煖房等で、排泄物處理は、構造に多少な相違はあるが、孰れも水洗式となつてゐる。只、此處に特記すべきは、前記煖房裝置の中で、日本建築協會出品第七號住宅に、例の露西亞流な『ペチカ』を用ひられた事である。居間と食堂の間仕切りに柱立した、其半面を兩所に現はし、同時に兩室を煖め得るようになつてゐる。露西亞の冬季に於けるロマンチックな氣分を此處に移したのは面白い。

◇是でざツと住宅街を隈畢つたから、今度は本館を訪れる事としよう。——オー！是は亦殷な事である。記者は、先づ、參考室の陳列から覽巡る事とする。斯の室で照覧は、何んと云つても、住宅建築の變遷を示した繪畫や寫眞である。先づ、部類を『西洋各時代の住宅』と『日本各時代の住宅』に大別して、前者を、史前の住居たる岩窟や、蜂巢形石屋や、乃至は樹枝と土塊で造れる家から、湖上の住宅まで、奈何にも、我等祖先の原始的住宅と、現代の文化的住宅まで、そこに、人類の住宅に徴象する進化線を深刻に見ることが出來得る、それより、エヂプト、アッシリヤ、グリーク及ローマンから、ゴシック建築の英、佛、獨、伊等に於ける特徴と進展を示し、轉じて、ルネッサンス期に於ける伊、佛、西、英、蘭等の建築を識らしめ、終りに、サラセニックのそれを示してゐる。而して、後者に於ては、上古、藤原期、鎌倉期、室町時代、桃山時代、江戸時代に於ける住宅建築の變遷を示して、附するに、現代に於ける西洋建築として、獨、佛、英、米のそれを以てし、その他、瑞、露、伊、諸の農家を以てしてゐる。而して一

段と面白く且つ極めて有益なる事は、鎌倉時代の古圖より蒐めたる家具、人物風俗、住宅建築の部分抔に於ける變遷を、繪畫或は模型等にて示したることである。

◇以上の外、大阪北港株式會社住宅經營配置圖、大阪府立野田及今宮兩職工學校が各出品の『住宅設計圖及模型』、大阪工業學校出品『實驗室試驗成績圖表』及『材料強弱試驗片』と家屋設計圖、石膏細工の家屋模型、朝鮮銀行營繕課出品の『京城社宅建築圖譜』東京市出品『乃木邸』、大阪市出品の都市計畫圖表、東京市出品の『東京市々營住宅設計圖』內務省出品の、田園都市及勞働者住宅の寫眞と圖面、可愛いのは、大阪市堂嶋尋常小學校、明治尋常高等小學校、難波尋常小學校、濟美第五尋常高等小學校、西六尋常高等小學校等の生徒の手に成れる校舍、住宅等の設計圖及模型、水彩畫、各種の手工品である。殊に一點の異彩を放てるは、前記濟美校小澤氏の鍛錬に成れる短刀一振が、その可憐な手工品中に在る事である。其他、建築小道具と、曾て日本建築協會が前後三回に亘り懸賞にて募集せる各種住宅の設計圖案中、當選せるもの數十葉を陳列されてあることは、出品實物住宅とよき對照を成して、觀者を益すること多大なるものがある。

◇是で、ざッと參考室を見畢つたから、次は建築材料その他の出品を一巡することとしよう。記者はその一つ々々に多大な興味と啓發を與へられたのであるが、全出陳一百五十餘箇所のものを、今此處に一々紹介することは、到底紙幅の容さゞる處であるから、今はその陳列物の品名を敘記するに止めて置く。蓋し、是れだけでも、奈何に用意の盡されて居り、又我等が『住ひ』を中心としての出品物に啓發される處多大なるものがある。

ライオン齒磨、萬歲ブラシ、照明硝子器、モスリン友染、家庭用利器、金屬雜貨、美術工藝品、濾水器、錫器、大理石玉突臺、漆器、電話器具、屏風(二ケ所)、消火器、二重焜爐湯沸シ、卽席ビール冷シ石油厨爐、西洋家具室裝飾品、ポンプ 電氣什器、漬物機 繪綿入フトン、陶器風呂具他、喞筒(二ケ所)、漆器表具品、カリンピヤ携帶椅子、寢臺並ニ附屬品及寫眞、重寶器、電熱器、造花、學校兒童用机腰掛、電氣器具各種、電灯照明器具、硝子類、鐵筋コンクリート壁體構成用ブロック各種、建築材料及器具、マグネサイド磁

石外、大華石製作品、專賣特許宮崎式ペチカ、眞鍮ブロンス建具用金物、煖房金物、金剛アスベストセメント製品、煉瓦セメント亞鉛引浪板外、建築金物(二ケ所)建築用加工木材、セメント防水劑、ウオータイト急結防水劑、セメント製洋瓦、タイガーボード(完全壁板)、白亞鉛ペイント、コンクリートペイント、セメント、ヒトロライト板、カラー板、大正便所模型、川崎式コンクリート鐵網、西川式釣足場用捲上機、アラバスチン粧室料其他、便利板ペニヤ板、塗料、顏料類、MT式鐵筋ブロック、田邊式鐵筋ブロック、セント加工品、燒石膏及石膏細工、洋風建築金物塗込、ストーブ洋家具金物、硝子製器具、木材、建築材料、連續タイル、ポートランドセメント(二ケ所)、建具及裝飾煉瓦、タイル、セメントタイル、神代木、片面銅板、建築金物家具用付屬金物、ポタイル一式、屋根瓦、金剛製品、ペイント塗料、水性塗料、輸入ルーフイング及フエルト、淺野スレート波形板、同大平板、石綿スレート、石綿板ロッコー、瓦屋根材料天然スレート、便利瓦、アスファルト、衛生工事材料、家根瓦、窓硝子、電球サンシップ及電燈照明器具、大理石製作品、煖六竈、硝子板及製品、煖房器具類(二ケ所)鑄鐵製放熱器、電熱器、倉庫用扉及輕量金庫、敷物、家具窓掛用織物、電話器、電鈴、電量計表示器、暖房具、建具(二ケ所)由多賀織各種材木、襖引手及建築金物、ポートランドセメント、カルピー、木材、衛生器具、リノリユーム、クリユム油、瓦、石材、セメント、ワニスペンキ類、スケールラニブロック、オバリットタイル、鉄管、セメント、建築材、家庭水道ポンプ其他、模型、敷物、ホイラーのラッエター、ペンキ塗見本品、ニス及塗料、ステンドグラススチールサッシュ類、セメント、ロールブラグ類、ジョイライト、スプリンクラー大理石鐵平石タイル類モザイクタイル、コルク製品ケルコイド、王冠セメント石綿瓦、唐木テーブル及材料、ハキユームクリナーエウエーター附屬品、板硝子及硝子戸、マーブルセメント及加工品土管、耐火土管、壹六十三ケ所)、壁ノ素ボーライト、石材標本、人工石、日本リノリユーム、アサノセメントプラスター、辨柄、日本塗料、三熊氏器械類、簡易釜所換氣裝置、專賣特許宮崎式ペチカ、直接間接溫水暖房座敷給湯、當永式自働電氣ハウスポンプ

◇以上の數多い出品物に就いて、その一つ〳〵が皆それ〳〵の特異を有つて、珍らしいといふよりも、生活に喰い入つたもの許りで、斯うして覽れば、成る程"住ひ"を中心とする材料や用具の、奈何に日新しい洗練されたものや、家庭的に餘程經濟的文化生活をなし得る物や、その他、壹百五拾餘箇所の陳列物何一つとして我等の心を唆らないものはない。併し、今はその一つ〳〵を此處に紹介するの餘裕なき事を遺憾とする。

◇是で先づ、出品住宅と本館内の陳列品をざツと一渉り覽たから、心も暢びやかに秋の麗な光りを浴びつゝ、場内のそゞろ歩きをする事としよう。

先づ、其處等の無料休憩所で、出品者の心盡しな綠茶に暫し憩ひつゝ、見るから瀟洒な『音樂堂』より流れ來る數々な妙へなる曲目に心耳を澄すも可からう。噴水盤に迸る水の光りに、秋の靜寂を偲ぶも又興深き事である。住宅博獨特の『晝間活寫眞』に『安全飛行機』に、亦變つた處の感興を充たすも面白い。その他場内に散在せる『無料休憩所』の數々がその建築樣式に、思ひ〳〵の新機軸を出してゐるのを味つてみるのも、一種の建築物として大層目新しいもの許りである。

◇落暉は、壯嚴にして極美な彩光を、燦として斯の會場に投げるとき、飽かぬ一日の觀覽は、茲に云ひ知れぬ快き印象を我等に胎して、記者は惜しくも再び『櫻井』驛頭の人と成つた。『秋』のけはいは、一層靜けく我等の心耳を一段と澄ましめた、竭きぬ興趣飽かぬ觀覽、何んたる會心な一日であつたであらう。今はペン秉りつゝも、我懷ひは遠く『櫻ケ丘』に馳せてゐる。

附記——記念すべき空前の催したる我住宅博は會期剩す處既に四旬を出でず、斯の絶好な機會を逸するなく、半日の閑を住宅博に客むなくむば、眞に獲る處の深甚なるものあるを疑はず。蓋し斯、の一編は、纔にその片影を捉ふるに過ぎずして寧ろ、實體の偉大さを誤るなきかを虞る敢て覽者の忝觀を奬む

部分は全體の奉仕の爲に生きざるべからず



京阪建築雜感

高層建築の增加—三越—高島屋—大丸—住宅改造
博覽會—裏千家の茶室と庭—大德寺の茶室と庭

文學士　黑田鵬心

□十月十二日午後七時半東京驛發の急行で西下し十七日午後九時卅七分大阪發の汽車で歸京した、其の間五日間、京阪に於いていろ〳〵な建築を見たので感想を書いてみやうと思ふ。

□先づ十三日の朝、梅田へ着いて直ちに高麗橋の三越へ車を馳せたが、半年振りで大阪市に高層建築の益々增加した事に眼がついた。併し特に外觀の美を誇るやうな建築もないらしく、多くは所謂ビルデイング式のもので、其の貸オフイスの空間が多い事と相俟つて、何んとなく淋しさを感せしむる。

□齒の拔けたと云ふよりは、一二本の八重齒が生へてゐるやうなのは、都市の美觀としても面白くない。其處へゆくと、東京驛前の丸の內ビルデイ

ング、日本郵船、東京海上などは相並んで美觀である。

□三越の前では三井が上へ增築をしてゐる。上への增築は横への增築と違つて、工事上にもエレヴエーションの上からも困難が多いであらう。東京の三越も僅かに一階と屋上との增築であるが、却々厄介な工事で、豫定よりも延期され、又下の階の天井に水が浸み出したりして弱つた。

□三越は一昨年秋增築が出來て、立派な中央大階段もあり、大玄關も作られたが、高麗橋筋の道路が狹いために、殆んど用ひられないでゐる。横長の敷地で、短い方が堺筋の電車通に面してゐるので、其のプランニングは到底うまく行かない。

□十四日には午前新築の高島屋へ入つたが、この建物は正方形に近い矩形なので、電車通に面する中央を玄關とし、入つた突當りに四基のエレヴエーターを並べ、其の左右からエレヴエーターの裏を廻段が廻るやうにしたプランが單純で、明快である。デパートメントストアとしてはプランは簡單明瞭なのがよいと思ふ。東京の三越は大きい事も大きいが、つぎ足し建築で、稍々複雜のプランとなつてゐるので、始めての御客は困るやうである。

□内部の食堂、休憩室なども色彩、手法とも概してよく出來てゐる。殊に五階か六階の喫煙室は氣に入つた。美術部の奥の日本間も椅子式に適するやう加減され、椅子の色もよく適してゐる。但し天井の漆喰は感じがよくない。

□第一階エレヴエーターの入口の上のモザイックは未完成であるが却々立派なものである。八階屋上の四方の塔屋はうまく利用されてゐる。又屋上を集會等に利用する設備もよく考へられてゐる。

□外觀はゴシック式であるが、餘程近世的で、複興式の氣持が加はり、白木屋のやうに敎會堂氣分がなく、デパートメントストアとしても不適當でない。要するに新築の高島屋は、内外とも氣持のよい建築で、流石畏友岡田信一郎君の設計である。丁度上から段々見て階下へ來たら岡田君に逢つた。

□それから大丸へ行つた。この新築も私は始めてであるが、ヴオリーズ氏の設計で、日本人では出

來ない樣な點もあるが、第一階に中二階があるのは、面白くない。講堂か銀行の營業室か何かならばよからうが、商店には應はしくない。

□翌十五日は、日本建築士會の主催で、東京の建築家二十數氏が、日本建築協會主催住宅改造博覽會を見物せられると云ふので、私も豫ねて中條氏岡田氏松井氏等に御話して一行に加へて頂く事とした。即ち九時頃梅田へ行くと長野博士、岡田氏に逢ひ、又片岡博士始め協會の方々にも逢つた。

□驛て九時半汽車が着くと、曾禰博士始め、一行の大半は知つてゐる連中なので、快談しつゝ箕面行の電車中の人となり間もなく櫻井停留場に着した□事務所に少憩してゐる間も、實物住宅が數軒眼についた。先づ本館を見たが、建築材料や煖房裝置など素人眼にも參考となるものが多かつた。殊に興味を惹いたのは、日本及び西洋の住宅變遷史料であつた。日本のは大低わかつてゐるが、西洋のには珍らしいものもあつた。唯時間が無いので制愛して再び事務室に歸り、晝食後、愈々住宅の見物にかゝつた。

□何しろ二十五軒もあり、一々靴を脫がねばならないので、到底時間もなし、上つてみたのは十軒あまりであつた。外觀は二十五軒の內、一軒を除いて總べて西洋風であつた。內部の主なる部屋が西洋風である以上は、外觀が西洋風になるのは當然である。一軒の日本風のは、數寄屋風で、ジャバニースバンガロー式と名をつけてゐるが、あまり凝りすぎて、普通の住宅や別莊としては適してゐないやうに思はれた。

□普通の住宅は、日本風にしても西洋風にしてもあまり凝らない方がいゝ。凝つた數寄屋風とか、茶室風などは、時偶に入るにはいゝが、其の內に常住すべきものではない。住宅は寧ろ平凡で、容易なのがいゝ

□今回の出品住宅を見て、氣のついた事は、一般に便所、臺所、風呂場の設備に改良を加へ、又煖房を設備した事である。これらの點は、在來の日本住宅に最も缺けた所であるから、その改良に全力が向ふのは當然であつて、喜ぶべき現象である

□もう一つ氣のついた事は、大體に於いて主人夫

婦の居間、書齋、應接間等に西洋風を採つてゐるが、寢室、老人室、老人を豫想する家庭の食堂等に於いて、老人に對する快適と老人でなくとも、日本人として長い間の座習に對する顧慮とから日本風を採用し、食堂に於いては往々其の一部分を日本風——疊を敷いて座式とする——を採用し、如何に其の調和に苦心してゐるかといふ事である

□長い卓の一方の足を短くして疊の方に載せ、疊の方には老人を座せしめ、主人夫婦其他は腰掛けて、同一の卓で食事するといふのは、實に外國人が見たら滑稽に類することであらう。併しその變態を嗤ふ前に、それほどにして過渡期の現狀に滿足を與へやうと云ふ設計者の苦心は買つてやらねばならぬ。

□階上の寢室を純然たる日本風にしたものと、純然たる西洋風としてベッドを置いたものとは、兩極端であるが、私等の考では夫婦の寢室などは、純然たる西洋風がいゝと思ふ。日本風にすると、客間の代用にもなるが、それが爲めに折角階下で各室を西洋風にしてゐるのが、後戻りして了ふやうな氣がする。私などの考では、應接間までは靴の儘客を通せるやうにしたい位に思つてゐる。

□猶色々に思ひ付いた事もあるが、茲では雜感として以上に止めて置く。唯全體として、平和博の文化村に比べて、實際的であり、仕事も叮嚀に摸範的實物住宅として相當に價値あるものが多いといふ結論だけを述べて置かう。

□それから一行と共に箕面に行き、まだ紅葉には早かつたが、瀧まで見て、石橋で一行と分れ、京都に一泊し、翌十六日は庭園協會の一行と共に、半日の見學をした。

□先づ本法寺に光悦作の巴の庭を見、轉じて裏千家の庭と今日庵、亦隱庵の茶室、大德寺方丈、眞珠庵、大仙院、龍光院、孤蓬庵等の茶室と庭とを見た。昨日は改良住宅を見今は三百年前の茶室を見る。その變化、對比は却々面白く、しかも三百年前の茶室に庭園に、今日の改良住宅に應用すべき點をみるのは一層面白い事である。

□今日庵、亦隱庵其の他裏千家の茶室には比較的技巧が自然的に行はれて嫌味なく、一寸したとこ

ろに面白い意匠が現はれてゐる。例へば欄間に自然木で三日ヶ月形を現はしてゐるのなどは、何でもないやうで雅味があつて面白い。

□大徳寺は去年も見たが、何度みてもいゝ所である。奇を弄しない、献立の少ない庭は、住宅の小庭に應用すべき要點を捉えてゐる。小さい庭に大きな燈籠や大きな石を置いて、態々庭を小さく見せるのは馬鹿げてゐる。小さな石に小さな木を一寸添えて置けば大きく感ぜられるのである。

□眞珠庵、孤蓬庵についてもまだ書きたい事はあるが、又の機會として、翌十六日は再び大阪に引かへして大毎に松方幸次郎氏秘藏の洋畫を見、高島屋に近松を見、其の夜歸京の途についた。

（一〇・二四・於東京）

この年の秋もなかばを過ぎぬると

おもふこゝろに木槿浮び見ゆ

『ヂャッズ』

在プリンストン大學　Z　Y　生

誰かの言葉に、『建築は氷れる音樂なり』といふのがある。建築と音樂、それも、確に藝術としての或る交渉を有つてゐることは疑ひなき事實だ。音樂の調律（リズム）は、建築構造のそれであるとも謂へる。音樂の音波によりて畫き出されたる或るものは、建築の Design に相當する。——何んにしても、建築家が音樂を識り、音樂を考へ、音樂を論ずることは、必ずしも門外事としない。殊に、建築家は何處迄も建築の學と術との外一歩を出でない筈のものではあるまい、と思ふ。、故に、私は差し當り、亞米利の最近に於けるジャッズ・ミュージックを書いてみよう。

ヂャッズ・ミュージックは、今米國に流行しつゝある俗惡な音樂である。獨立に演奏さるゝ場合もあり、又舞踏に伴つて奏せらるゝ場合もある。日本でも、ヴイクトーア・レコードなどによつて知られてゐらうが、純音樂の立場から見て低級なばかりでなく、その流行の風敎の上から見ても弊害がないでもない。世界的吹奏樂隊として有名なスウサバンドのスウサなどはこれを手痛く攻撃してゐる。併しこれと反對にその將來に望をおく樂觀論者もある。左に紹介するカール・エンゼルなる人の一文の如きはその一例である。（アトランチック・モンスリー八月號所載）

一

ヂャッズは今我國で到る處に流行してゐる。此事實を否定するのは恰も昔話にある頭丈けは砂にうづめて尻尾は高く日にさらしてゐたといふ蛇鳥のそれと等しい愚な話である。且又過去の歷史をも全く知らないで、道德の廓清者として、ヒステリー的に屋根の上から騷しく烈火の如く呼號する

のもつまり己の自惚を露はすやうなものである。

こういふ音樂が流行して、そのために面倒な問題が生じてくる。今日の樣な狀態は別に新しいことではない。恰もこの情態は多くの重大な問題を提供してゐる。ではあるが過去の時代に於て、かゝる種の音樂と舞踏の流行のために起つた時程に今日は憂ふ可きものではないのである。チャッズの配遇者となる時のダンスは、確に品位あり優美なものとは言へぬ。ベリアルの息の樣な有毒なものであることも確である。さかりのついた猫の鳴聲の樣な、此有頂天な音樂は、大膽な幻想を呼吸せしむることによつてのみ、本來の音樂に歸らしめ得ることも事實である。

ではあるが此等の舞踏は、我等の數時代の祖先がやつてゐた樣な、殆ど信ずることの出來ぬ程の厚顏な惡風に比ぶれば、遙に好い方であるといふことは記憶しておかねばならぬ。しかもその祖先といつても、餘り遠くない佛蘭西革命時代のことで、その頃には巴里にあつた千八百の舞踏場が足りないで、敎會や墓場に行つて陽氣に踊つたものである。」しかも此チャッズ調の中の最良のものは所謂『良き古の時代』と呼ばるる頃に、米國が産出した『通俗』音樂よりも遙に無限の或獨創性を有つてゐることも許さねばならぬ。何れの時代何れの人種にも、本能が釋放せらるゝより生ずる一種の社會狀態といふものはあるのであつて、自然はこれを阻止することを賢しと敎へてゐるのである。此無智な卑しい旋回（このものに對しチャッズが責任ある如く或者によつて言はれてゐる）は、（舞踏のこと）社會のおろかな神經衰弱的な地層の緊張狀態が解放された處より生じたのである。併しこういふ舞踏はチャッズなる言葉が造らるゝ遙か前からあつたので、今に始つたことでない。又最近の狂熱的流行のあつたタンゴ踊の如きも之れである。

二

多くの人の心にチャッズなる言葉は、輕薄な猥褻なものとして響く、併しこゝに試みに諸君に尋ねたい。サラバンデなる言葉は、如何なる暗示を

諸君に與ふるか。確に諸君の大低には、これはヂャッズとは、根本的に反對するあらゆるものを意味する如く思はるゝに相違ない。この言葉は諸君の心中にバッハやハンデルのおもむろな、堂々たる曲調を想起せしむる。十八世紀のバーチタスやソナタやオペラなどの中にある高尚な威嚴ある調子を思はしめる。しかも此サラバンデが、一五八八年に初めてスペインで舞踏せられた時は、今日ヂャッズがショッキングを與へて、あるよりも更に強いショッキングを與へたと思はれる。サラバンデはムール種族に發したものと思はれる。しかも之れが後に今見る如き東洋的な異國情調が、斯の舞踏に一刺戟を與へたものである。當時の貴女マリイ・モンタグゥが一七一七年にアドリアノープルから書いてある。彼女は或富める回敎徒の宮殿で是れを見たので、之れ等の舞踏の或ものは、最も早い頃のサラバンデに屬しておつたものに相違ない。一六一三年に佛蘭西の作家ピエル・デュ・ランクルが『若い娘の中で完全にその舞踏を摸することの出來ぬものは殆ど一人もない程に、流行せしめたのは、純粹の舞踏者に混じて踊つてある娼婦の力である』と書いてある。斯の言は移して今日の米國の有樣を言ひ得る。新式の舞踏をつくり公衆が爭つて之を摸倣する樣になるのは、舞臺から起るのである。敎父アリアナは一九〇六年にデ・スペクタキュリスなる一書を著はし、その中に一章を、全部サラバンデの攻撃にあてゝ、その弊害は中世記に歐洲を荒らしたペストよりも甚しいものがあると論じてある。ヂャッズのために蒙る道德的頽廢は、世界大戰によつて惹起された荒廢よりも甚しいものがあると論せられてある。しかも我等の知つてある如く此サラバンデは、最大なる作曲家が、彼等の最も高尚な純粹な靈感を鑄造する母躰となつた。コンチエルト・ソナタの道により、絶對音樂の壯大なる形式、オーケストラ・シムフォニーの發する土壤となつたのである。

ワルツが始めてウヰンナで織り出され、バリーに一大渦卷となつて移つて行つた時には、多くの敬虔な人々の攻撃があつた。しかもウェバーはかゝる醜きものを彼の廣い藝術のアントルの下に蔽

びつゝみ、ショパンは品質ある花冠をもつて已の冠とした。

自分は以上の二三の歴史的事實をもつて、かゝる論を爲す余の眞面目を疑ふ者に答へる。ヂャッズの未來の發展如何、音樂の樣式に最後に貢獻する處如何といふ點に就いては、確に後の時代の人々が此等の特別なる曲調の發端を探究し、斯の音樂の長頭に就いて、現代の人々が如何なる考を有つてゐたかを知らんと努むる時が來よう。之れは決して投機的の推測でない。後代の人々が現代人の斯の音樂に對する批評が、その道德を弛緩せしむる惡弊に對する一把一束的の暴言以外に、何等の公平なる批評の跡のないことを發見した場合に、現代人の僻見に就て、疑はるゝ如きことゝならう。

音樂の他の樣式の樣に、ヂャッズも善くもあり得るし、惡しくもあり得る。自分は惡いバラードや、ベトーベンの惡い彈奏の仕方を辯護しないと同一程度に、此惡いチャッズも決して辯護はしない。自分は決してリムスキイ・コルサコフやブッチニーや更にそれ等に勝るヨハン・ストラウス等を濫用し、これ等を汚す處の倨傲な剽竊者の味方をするのではない。シェレーの詩を俗語に書き改めんと試むる俗化の使徒は、車輪をこぼち、船の機關を破壞すると等しい。自分は若しもかゝる音樂上の野蠻人が、同樣なる罪惡を犯す場合にはこれを罰せんと欲する。

三

ヂャッズは精神の狀態を診斷せしむるものとしては、症狀であつて疾患ではない。音樂の衣服に於ては患者にとつて鎭痛劑でもあり刺戟劑でもある。兎癈者にとつては、一の刺戟劑である。音樂に適用したるヂャッズなる言葉は、寧ろ反撥的のものである。這は騷音眩音の類、亂集渾沌の要素を含んでゐるのみでなく、著い又心を惹く音樂的性質に關する未だなまの儘の諸々の要素から風味原料を洗煉し、改良する一の形式である。良きヂャッズは一の作曲である。表面的には調和することが出來ぬ樣に見ゆる諸要素の幸福なる一致である。米國通俗音樂の最近の一方面である。之れは

今より凡そ廿年前に起り、世界の如何なる處にも此れに匹敵するものゝない程に高調して來た處のものである。今より十五年前には無趣味な無氣力な『我周圍を廻れヴィイ』なるワルツに發し、これ等が紐育西廿街の奥の客室で奏された。之れより一九一二年にはこれが歌たるの特權を强てふり廻す頭は、主張の時代に達した。かくして一九一五年に一の晴やかな日晴れやかな夜が來た。自分は特に晴やかな夜といふ。それは暖かい樂しい小オペラの夜であつた。『ゼマヂック・メロデイ』を取扱つた夜なのである。音樂上の才能と常ならぬ勇氣を恵まれてゐる一人の青年が、彼の調(チューン)に一の曲調(モヂュレーション)を與へたのが此『マヂック・メロデイ』である。これは之れ自らには何等異常な處もないが、併しその變化にきわだつたものがあり、米國通俗音樂の新なる統合を與へた點に於て出色のものである。通俗作曲家の中には餘り高踏的なものを製作するものがある。彼等は或賢明な人によつて、餘りに高すぎるといふことを忠告せられた。民衆はこれを好まぬのみならず、無視する。かゝる時に上記の曲は一の救となり解放となつた。

漸次に斯の青年に摸倣する彼よりも更に大膽なる徒が增加して來た。大皷判ですつた樣なきまりきつた節奏、乾燥は無趣味な進行の支配してゐた無意味な音樂の中に豐潤な變化多き階級が注入されて勝利を得て來た。

今自分はかゝる通俗音樂の進步に就いて、十分なる研究をしやうと思ふのではない。唯單に典型的の歌曲を擧げて不斷の進化のそれの階段を暗示せんと思ふのである。自分の記す處に大した誤がないとすれば、此ゼローム・ケーンの『マヂック・メロデイ』は一の時期の前奏曲と見てよい。天才の作ではないが發明の才に富める者の作である。『凡ての人は之れをする』といふ曲よりも、階調に於ては乏しいが、併し之れよりも音樂の水平線に於て更に高くある斯曲が、不朽性を要求し得る點はそれが最初大衆に聞かされた際、彼等の耳が魔術的の力を以て摑まれてゐたといふ點にある。而して群衆は一度卓越した判斷力を現はした。隨つて彼は最も多產な雅致ある特色ある輕い音樂の作

曲の一人たることを証明してゐる。彼が純メロデイの範圍を開拓せんとする時に、彼の曲は安價な感傷主義に墮し、偽りのフォルクソングの色彩を帶ぶる樣になる　併し彼の調音的工夫になると、それは彼自らの有する本來の色にそんで來る。そして通俗的の人々の會話は、之れが『青』であると決定する。

神秘のベイルは、『青』なる名によつて廣つて行つた最初の暗黑なる行爲を敢ふてゐる。ではあるが、永への隱蔽は、それを透過してゐる憂鬱な未決囚と同一である。尤も强剛な人々は、その人その場所その曲調を指摘せんとはしてゐるが、リチヤード・ワグナーは『青』なる言葉を更に生々と現はさんがため、トリスタンとイソルデの始に於て遠くではあるが朦朧たる青さに於て尙ほきらめいてゐる樣に綠色の岸邊をつくり、トリスタンをこれに向けてゐる。これはワグネルが心して試みたのである。併し自分は昔の『青の階音』に就いて語らとするのではない。ワグネルのこれは一の壯嚴な例である。

『喧燥（ラツグ）』――これはヂャッズの早い時代の調であつたが――節調（シンコペーション）と調律（リズム）との物を主としてもつてゐた。『青』は香味ある階調をもつて味つくるに至つた。音樂の之等の二つの要素即ち調律（リズム）と階調（ハーモニー）に加ふるに――民衆は初めには唯斯の中の一をのみ知つてゐたが――更に斯の旋律と調律から階調に進み最後に旋律配合法を知るに至つた此最後の發見の結果がヂャッズである要するに、ヂャッズとは『喧騷時代』プラス『青』プラス多音性（オーケストラ）である通俗音樂の主潮の中で、旋律（メロディ）、調律（リズム）、階調（ハーモニー）、旋律配合法（カウンタポイント）を結合したものである。

四

右の四箇の素成分は、疑ひもなく明かに米國の今日の如く種族的の姿をもつてゐる。しかも此アメリカ主義は何處までも種族的のものと云ふのではない。ネグロから借りたり、印度人から剽竊したりして滿足してゐるのではない。そこに東洋的の反映の現はれてゐるのは、コンゴ河よりも寧ろヨルダン河から受けた方が多いものたるを現して

ゐるのである。原始的の調節は有色人種から採りブロードウエイ（紐育市の大通）の劇場がまぐれあたりにやるセッチック的の調理は、この贅澤な程の階調感覺の無限の天賦を有つてゐることを示してゐるが、ヂャッズ自らが有つてゐる對置的な複雜は、複雜な騷擾な現在の米國生活から生れた本來土着的のものである。今ヂャッズ・オーケストラに見る樣な獨立の聲々が擾亂し、疊々し、角力する如き調を、ヂャッズの作らるゝ前に何處で諸君は聞くことが出來たか。サクサノホンが大袈裟な歌を吹く、クラリネットが持前の騷音を出す、ヴワイオリンがオブリガトーと共に前に進んで來る、その隙間々々を無遠慮なフルートが突進したり突然退いたりする。だが、正しい階音に正しい調子をつけることは誤らない。トロムボが切線を重々しく辷り去る。大鼓とクシロホネが、之等の万花鏡的の推移の中に、高い輕い調律を打ち込む。コルネットが人の善い鐵面皮さをもつて、之等の騷の上に突然聞えて來る。秩序の中の混沌——大家の用ゐるオーケストラの用語——あく迄も幻想的音樂、陽氣なグロテスク、斯かるものが善きヂャッズである。立派な比類なき創造、逃る可からざるものでしかも逃れんとする。紙上には記述するの殆ど不可能なる或物である。

ヂャッズは音樂中の不羈なむらき者である善やヂャッズのバンドは、同一の作品を同一の態度で同樣に二回繰り返し演奏するは不可能である。各々の演奏者が解釋者であると同時に、創造者たる怜悧な音樂家であらねばならぬ。

實に記すも不思議なことは、此諸君には事實不可能に見え、藝術的には望ましくないと思はるる此オーケストラ上の即興樂は、現時代の發明ではないのである。三百年前ペリヤモンテベルディのオーケストラの音樂家等は、此即興的の重複旋律法を有たんとし、又有つてゐた。而して是れが一旦失はれ更に又再發見されたのであるが、是れと類似のものが、ルシヤやハンガリアンのジプシイの音樂の中に發見することが出來る。その音樂の喧騷な即興、快く傳はる拍節、心情に斷えずおちつきを與へざる點等まさしくヂャッズである。ヂ

ブシイの演奏者等は、各々が指揮者の提琴に従つて蜿蜒、迂曲して流るゝ河の如く階調の流れを成し、説き難い調律的の綴を成しこゝに於て凡てが一に成り、しかも各々の樂器が已自らの間道に立ち入り、かくして又一の調和をなす處、理想的のヂャッズである。

フランツ・リットは、鍵盤上のジプシイ音樂に就いて一の暗示を與へる力をもつてゐる。彼はピアノオーケストラを奏する道を知つてゐる。ヂャッズはジプシイ・ダンスと同樣に一のバンドの多くの對照せる聲々が、單一な自發的な調律、階調對置的意志によつて結合して成る。

ヂャッズを奏することゝ書くとは違つた二のことであつて、ピアノの獨奏のために、ヂャッズ調を紙に書く時にはその芳香の大部分を失ひ終つてしまふ。唯苦しい基根のみが殘るのみである。併し幸に蓄音器のレコードが、斯の音樂を後世に傳へてくる若しも我等にしてスカーラッチクやクウベリンやラメユーが如何なる演奏をなしたかを知り得るレコードを有してゐるならば、今日の如く整列者や混亂者を煩はし、これを再現し、再建することに骨を折るが如きことが尠くして濟んだであらう。自分が聞いて知つてゐる。ピアノの上でヂャッズを奏し得る處の人は、唯二人あるのみである。彼等は世事にたけぬ巧みさと的確なる音樂家たるとをもつて私に印象してゐる。二人の中の一人はボストンに住む青年で、彼は心情によつてスクリアビンの十箇のピアノソナタを奏し、又諸君が望むならば或超絶的ヂャッズを奏して聞かしてくれる。それはスクリアビンの第三期の形而上學的徘徊の凡てよりも更に價値多きものである。他の一人の友人は紐育から歡迎されてゐる。彼はショバンやデェビユッシイの熟達せる演奏者であるが、しかも彼が家庭にあつてヂャッズを彈する時は、彼の十指はピアノの全鍵盤に觸れ、その妖術的の打觸、音色からヂャッズ幽靈を呪ひ呼び出し諸君を惑ひと而も嬉びの中に沈ましむる。

五

現在我等の周圍にある狡猾な歌や、僞印度人哀

歌や、百年前のざらにある歌や、卑しい英國のバラードの風庸な模倣や、佛蘭西印象派の不完全な反響や、こういふものに遙にまさつた、近代米國精神の更に典型的な更に包括的な處の音響は、即ちヂャッズである。善きヂャッズは甚だしく不道徳でもない。又極端に敎養のない人でもない處の人々によつて、又大都市の音樂等によつて享樂せられてゐる。又ストラビンスキイ・カゼルラ・サチイの如き歐洲の作曲家等をも魅惑しつゝある。恰もヂャッズが未だ幼稚であつた時代に、デエビユツレイを魅惑した樣に、『ゴリウォーク・ス・ケエクウオーク』や『コンストレールス』等は最も純なる藝術上の勞作物である。昨夏モーリス・ラベルは彼を訪問したエドワード・バーリングゲームのヒル氏に、ヂャッズは米國が產した、世界に貢献し得る唯一の獨創的の音樂であると自分は思つてゐる、と話した。レオ・ソウエルバイ、彼はロアに於ける米國アカデミイに送られた最初の有給の音樂家であるが、彼の室樂に於て又ピアノ・コンサートに於てヂャッズ調を響かしてゐる。ハーヴアード大學の音樂のアッソシエード・プロフエッサーたるヒルは、尊敬す可き人で、しかも音樂の鑑賞に於ては謹嚴いやしくもしない人であるが、メッサース・バッチィソンとメイヤーが彈奏した秀れた獨奏である『ヂャッズに於ける研究』に署名してゐる。ジョン・アルデン・カーペンターの『クラジイ・カット』バレーも確實に貢献してゐる。

かく言へば、或人は私がダンス・ホールの所有の人の密使か、又は不謹愼なる發行人や蓄音器會社の雇人か何かの如く疑ふ人があるかも知れぬ。併し私は事實善きヂャッズの味方をしても、今日の淫蕩なるダンスの辯護をするのではない。音樂組合の好色なる媒淫を辯護しない。むちやなレコード製作人等を擁るのではない。之等のものに對しては何處までも抗議をする。併し私はその結果は盲目に終る如き義憤に對しては同意が出來ぬ。又ヂャッズを悉く惡く言ふとにも賛成が出來ぬ。

紐育の音樂シーズンは既に九月二十日頃から始まりかけて十月の初旬頃から既に旺んになる。十月の如きは五日より始まつて廿一日まで毎日

音樂會の開かれてゐない日はない有樣である。其有名なる唄ひ手を寄せ集めてゐる點に於て、大仕掛なる點に於て、世界で屈指であると言はれてゐる紐育のメトロポリタン・オペラ・コムパニーのオペラも、纔て始まるであらう流石に凡ゆる國々の人々が寄つてゐる丈けあつてロシヤの民謠を唄ふウクライナ・コーラスとかヂャーアン・メクル・コーラスとか云ふ樣な團體の演奏會もある。フイルハーモニックやニユーヨルクシムフオユー・オーケストラなどの演奏會もある。ポーランドの大統領に撰ばれ、後故國を去つてカリフォルニヤに隱退し、百姓の眞似をやつてゐた世界第一のピアニストであるパデレウスキイも、ニユーヨルク・フイルハーモニーの演奏會に出る。ニユーヨルクでは此處に一回出演する丈けで後は米國各地を廻るさうである。

藝術とは人生そのものの也



會務

○極入會員

（會員）岡本茂樹君
（特別贊助員）刀禰英彦君
（普通贊助員）田中浩君、足立正雄君、藤原數市君、篠崎兼二君、石井彦太郎君、横田清四郎君、秦光義君、高田清太郎君、吉岡作一君、河合玄四郎君、藤田隆之助君

○住所移轉

木下助三郎君　京都市珠數屋通東洞院西入林フサ旅舍内
小島榮二君　東京市神田區淡路町一丁目ノ一山内方
山口榮作君　大阪市北區相生町二十番地
野瀬錄郎君　兵庫縣川邊郡小田村淨ヶ宮ノ先八四ノ一
中村庸二君　東京府下荏原郡蒲田村字北蒲田一二三
能勢丑二君　京都市上京區鞍馬口通室町西入小山町貳百拾六番地
松井角平君　兵庫縣武庫郡大社村字森具村六三四
會根田文雄君　東京市本鄉區駒込曙町十六ノにノ三十三號
石井鶴松君　兵庫縣武庫郡住吉村字區二七九
根岸元治君　大阪市外岡町幸通三丁目竹中寮舍
園部文雄君　大阪府下豊能郡豊中新屋敷高砂通大阪市廳都市計畫課内
西野利雄君　大阪市外玉出町一一〇〇
村上寅藏君　大阪府下豊能郡豊中村新免二四五
伊東武夫君　名古屋市東區城番町八番地
今林彦太郎君　兵庫縣武庫郡芦屋濱
瀨戸强三郎君　大阪市外天王寺村天王寺六一四五
藤井茂美君　大阪府下西成郡玉出町字北濱田九三一ノ三
池田長次郎君　共庫縣川邊郡小田村大阪合同紡績株式會社宅二十四號
長山興吉君　東京府下吾嬬町字大畑五八貳
多賀悌三君　神戸市大谷町壹丁目五八
佐藤清八君　大阪府下東成郡鯰江町字今福川北社宅八號
小野陸治君　和歌山市新堀市營住宅甲ノ

壹號

喜多　福松君　大阪市外鷲洲町海老江九一六ノ一

東　與惣次君　大阪市南區瓦屋町三番丁

糟谷　謙三君　新潟市旭町文部省建築課新潟出張所

增山　新平君　大阪市外東天下茶屋吉野通リ阿部野東浦一一五

原科　準平君　神戸市元町壹丁目二四三

北條　時一君　東京府下北豊島郡王子町上十條一三三六

岡本　茂樹君　大阪市西區八幡屋町八一神田方

伊東宗太郎君　福岡市筑戸五番丁二二五

宮崎　加平君　大阪府下西成郡玉出町字三反田六四三

古田　傳吉君　大阪府下西成郡鷲洲町海老江一五六一

松浦　基二君　廣島市田中町七〇ノ八

江口　廣樹君　愛知縣一ノ宮市濱町一〇以心庵内

小田　周次君　高知市帶屋町二丁目四八七

長瀨組出張所内

尾崎　恒人君　東京市外中野町字西町三六二四

安達　收一君　神戸市宮本通六丁目三五

池福　勇吉君　京都市上京區三條通新町角都組事務所内

佐田佐太郎君　支那青島市外滄口寶來紗廠建築事務所

○寄贈圖書

住宅十號　住宅改良會

建築雜誌九號　建築學會

經濟資料九號　東亞經濟調查會

建築世界十號　同社

工業評論九號　工業評論社

帝國鐵道協會々報九號　同協會

國民經濟雜誌十號　神戸高等商業學校

土木建築十號　日本實業與信新報

電氣學會雜誌十號　同學會

工業の友十號　工手學校

新住宅十號　洪洋社

庭園九號　庭園協會設計部

日本建築士會月報　日本建築士會

商業及經濟研究十號　大阪高等商業學校

通俗衛生九號　大阪府衛生局

都市公論第十號　都市研究會

朝鮮建築第三號　朝鮮建築會

電氣評論第十號　電氣評論社

結合第十號　結合社

建築畫報第十三卷　建築畫報社

工業ノ大日本第十號　工業日本社

建築之普及　帝國工業教育會

日本建築小史　雜草社

商業及經濟研究拾月號　大阪高等商業學校

※　※　※　※

役員及職員

副會頭　片岡　安
理事　小笠原　明劍
理事　横濱　勉（理事長）
理事　吉木　久吉
理事　竹腰　健三（編輯）
理事　中西　甚作（編輯）
理事　内藤　太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本　禹象
理事　舟橋　喜一
理事瀬戸文吾（主計）
編輯主任　江村　郊邨
庶務　西谷　節
庶務　清川　伊佐

會員	二四六	會員（地方）	八一
名譽賛助員	六七	終身賛助員	五七
特別賛助員	二四	普通賛助員	四〇八
合計（十月二十日現在）			八八三

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長　片岡　安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原朗
幹事　吉木久吉
幹事　松本禹象
幹事　舟橋喜一
幹事　瀬戸文吾
書記　西谷節

本誌及廣告料定價表（本號に限り一部七拾錢）

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	金五拾錢	貳錢
	十二册	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十一年十月三十日印刷
大正十一年十一月一日發行　（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區内淡路町一丁目卅一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第五集　第一一号　掲載広告一覧（掲載順）

堀野洋家具商会
川北電気企業社
大阪毎日新聞社
大福海上火災保険
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜松下建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所

国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵

佐伯工務所
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
清水組大阪支店
モリホン建築社
銭高組
山縣組
清水福太郎

山崎建築事務所
田村東京事務所
田村神戸事務所
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋商店
沖電気
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
川崎工場
砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄

河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所
品川白煉瓦
関西ステンドグラス製作所
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
浅海製作所
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
東京電気
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業

住友製銅販売店
住友東京販売店
岩崎商業
日本工剤
ヒーリング商会
南部塗料研究所
山中商会
東洋リノリューム
松岡鉄工所
大阪窯業
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東板硝子工業